

地球のいのち、つないでいこう



わたしたちは生物多様性に配慮しています。



安全・安心・環境をこれからも



環境・社会報告書

Environmental & Social Report

2013

積水樹脂株式会社

積水樹脂グループは、価値ある製品の創造を通じて 社会の福祉と進歩に貢献します

会社概要 (2013年3月31日現在)

社 名 積水樹脂株式会社
本店所在地 〒530-8565 大阪市北区西天満二丁目4番4号
設立年月日 1954年(昭和29年)11月26日
代 表 者 福井 彌一郎(代表取締役社長)
U R L <http://www.sekisuijushi.co.jp/>
資 本 金 12,334百万円
売上高(連結) 64,168百万円
経常利益(連結) 9,139百万円
従業員数(連結) 1,434名
国内連結子会社 23社
海外連結子会社 9社

主要な事業内容

都市環境関連事業

防音壁材、道路標識、サイン・看板、路面標示材、電子システム関連製品、交通安全資材、太陽電池製品、人工芝、人工木材等

街路・住建関連事業

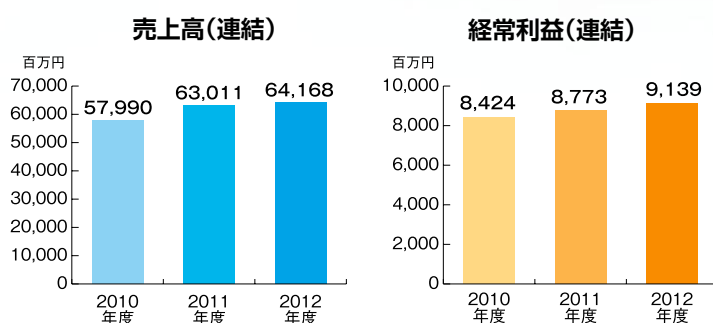
歩行者用防護柵、車両用防護柵、防風・防雪柵、車止め、組立歩道、高欄、公園資材、シェルター、ソーラー関連製品(シェルター・照明灯)、メッシュフェンス、めかくし塀、防音めかくし塀、外構製品、自転車置場、装飾建材、機能面材、手すり製品、アルミ樹脂複合板等

産業・生活関連事業

梱包結束用バンド・フィルム、梱包資機材、農業資材、施設園芸資材、物干用品、収納用品、組立システムパイプ、デジタルピッキングシステム、自動車部品関連製品等

その他事業

損害保険代理業他



道夢道 (どうむどう)

積水樹脂には、大規模試験走路「道夢道」と呼ばれる施設があります。これは、交通環境資材関連製品や街路・橋梁関連製品などを提供するにあたり、製品の信頼性を確かなものとするために、実際の設置条件のもとで実験を行う施設です。(滋賀県蒲生郡竜王町)

編集方針

本報告書は、積水樹脂グループの環境・社会活動についてご報告するとともに、環境・社会活動のさらなる向上を目指し、ステークホルダーのみなさんとコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。

また、本報告書は会社案内も兼ねて作成し、当社グループの理念、事業活動、製品等についても報告しています。

なお、掲載項目については、環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にしながら、当社グループの活動に照らして、重要な項目に絞り報告しています。

本報告書の対象

■対象期間

2012年度(2012年4月1日から2013年3月31日まで)
重要事項については、2012年度以前・以降のものも報告しています。

■対象範囲

積水樹脂株式会社および国内連結子会社23社
重要事項については、海外子会社を含めた上記以外の関係会社についても対象としています。

Contents

社長メッセージ	3
事業概要	5
積水樹脂グループの理念と事業分野	5
積水樹脂グループのグローバル展開	7
特集	9
特集①:製品を通じた社会貢献	9
特集②:生物多様性の保全に向けた取り組み	13
特集③:積水樹脂の社会貢献活動	15
環境報告	17
第4次環境3ヵ年計画の総括と今後の取り組み	18
地球環境調和型製品の取り組み	19
エネルギー使用量、CO ₂ ・廃棄物排出量 削減への取り組み	23
化学物質排出量・移動量削減の取り組み	25
リサイクルへの取り組み	26
第4次環境3ヵ年計画の実績と総括	27
第5次環境3ヵ年計画(2013~2015年度)	28
サイトレポート	29
社会性報告	35
品質管理活動	36
従業員と社内風土	37
労働安全衛生活動	39
社会貢献活動	40
コミュニケーション活動	41
コンプライアンス、コーポレートガバナンス、 リスクマネジメント体制	43
データ編	45

「経営理念の実践」が、積水樹脂グループの社会的責任(CSR)の原点です



代表取締役社長

福井 彌一郎

積水樹脂グループのCSRの原点

私たち積水樹脂グループは、「価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献する」ことを経営理念として掲げ、「都市環境」「街路・住建」「産業・生活」などの幅広い分野で事業を展開しております。

私は、この経営理念が示すように「事業を通じて社会的な課題に対する解決策をご提供すること」が、当社グループの社会的責任(CSR)の原点であると考えております。

当社グループは、かねてより「安全・安心」「環境保全」への貢献に取り組むことを主要な課題と位置づけており、2010年に策定した「経営ビジョン2020」において、この取り組みをグローバルに展開する姿勢を明確にしました。そして、東日本大震災以降、「減災」への貢献を課題に加えて事業活動を行っております。

「これからのまちづくり」に向けて

例えば、登下校中の児童生徒等が巻き込まれる痛ましい交通事故が相次いで発生したことを背景に、緊急対応が必要とされている「通学路の交通安全対策」に対して、当社グループは、長く培ってきた技術力を活かし、現場の状況に応じた効果的な対策を検討し、それに適した様々な製品をご提案しております。この提案力と製品の品質・機能が評価され、交通安全資材、防護柵をはじめとする当社製品をご採用いただいております。

この他にも、当社グループは、美しいまちづくり、減災まちづくりに貢献する製品の提案活動を積極的に行っており、これらの活動を通じて得られたご意見や知識・経験などを新製品開発に活かしております。

その成果をみなさまにご覧いただくため、「安全・安心」「環境」と減災・防災に貢献する製品のご提案」をテーマにして、2012年9月に「新製品発表会2012」を開催いたしました。

第12回目となる今回の新製品発表会では、各種製品の性能試験、実演展示などの体験型の企画を行い、国内外より約1,600名ものお客様にご来場いただきました。私たちの製品に対する想い、品質へのこだわりをご理解いただくとともに、「これからのまちづくり」に向けて、活発な意見交流を行うことができました。

環境に配慮した事業活動

企業が社会的責任を果たすためには、事業活動のあらゆる側面において、環境に配慮する必要があると考えております。

そこで、私たちは中期的な活動計画として「第4次環境3ヵ年計画(2010～2012年度)」を策定し、全員参加で環境に配慮した事業活動を推進してまいりました。その結果、第4次環境3ヵ年計画で設定した全20項目のうち17項目で目標達成率90%以上の結果となり、取り組みの拡大をはかることができました。

最終年度となる2012年度においては、生産プロセスの改善や省エネ設備の導入により、生産部門・オフィス部門共にCO₂排出量を大幅に削減することができました。また、生物多様性の保全への取り組みとしては、環境省とともに「国連生物多様性の10年日本委員会」の活動を継続して支援したほか、2010年度より進めております森林保全活動については、石川県の「企業の森づくり推進事業」への参画、滋賀県での「ヨシ刈りボランティア活動」の実施など、活動の範囲を拡大いたしました。

今年度からは、より高い活動目標を掲げた「第5次環境3ヵ年計画(2013～2015年度)」を策定し、取り組みをさらに強固なものにしてまいります。

社会貢献活動を積極的に進めています

社会貢献活動につきましては、2012年度は、前年度に引き続き、「公益財団法人 交通遺児育英会」に対し、車線分離標「ポールコーン」の収益の一部を寄付する取り組みを行いました。2012年8月には、この取り組みが認められ、褒状を授かりました。

また、当社創立60周年記念事業の一環として、青少年の育成を目的に、地域のサッカークラブに所属する小学生を対象とした「サッカースクール」を、2013年4月から7月にかけて全国3ヵ所(京都府、宮城県、北海道)の当社人工芝納入グラウンドにて開催いたしました。元サッカー日本代表の釜本 邦茂氏を講師にお招きし、多数の方々にご参加をいただきました。

今後も、継続的な社会貢献活動を通じて、社会との絆を深めてまいり所存であります。

さいごに

最後になりましたが、本報告書は、当社グループのCSR活動の全体像をご紹介しますものですが、まだまだ深めていかなければならない課題や改善点も数多くあります。

これからも、ステークホルダーの皆様との一層のコミュニケーションを通じて、着実に活動を前進させ、社会に貢献していきたいと考えております。

貴重なご意見、ご指導をいただければ幸いです。

経営理念のもとに、独自の技術力によって特色ある製品の事業化をはかっています

経営理念

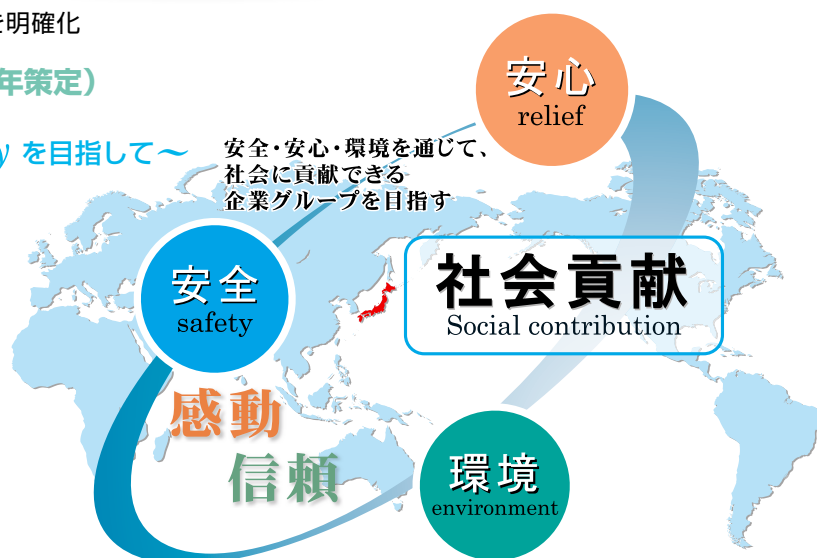
積水樹脂株式会社は、プラスチックと金属、繊維その他の物質とを結びつけた、価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献し、会社の限りなき発展と従業員の豊かな生活を実現する。

経営理念を補完するべく、目指すべき姿を明確化

経営ビジョン2020(2010年策定)

~Hybrid Value Companyを目指して~

『価値ある製品の創造を通じて“世界の安全・安心”“地球環境の保全”に貢献し、世界中の人々に信頼され、感動を提供し続ける企業グループ』を目指します。



都市関連事業分野

交通環境資材関連製品

太陽電池や電子技術、防音・遮音技術などを駆使し、時代のニーズに応える製品が、“安全・安心”なみちづくりや道路周辺の景観性向上に貢献します。

スポーツ・人工木関連製品

耐久性・メンテナンス性を兼ね備えた人工芝や、自然との調和をコンセプトに、独自の技術から生まれた人工木材を提供しています。人工芝「ドリームターフ」は、その品質が評価され、プロサッカーチームのグラウンドをはじめとする国内外の様々なグラウンドにご採用いただいています。

防音壁材



アルミ枠透明板

道路標識



スポットビーム407

サイン・看板



観光案内サイン

路面標示材



ソリッドシート

保安用品



ボールコーン

太陽電池製品、電子システム製品



オプトマーカーⅣ

道路反射鏡



ハイドロクリーンミラー

交通安全資材



デリニエーター

人工芝



ドリームターフ「cool」

人工木材



スーパーオレンジウッド



角型テンダーウッド

街路・住建関連事業分野

街路・橋梁関連製品

美しいまちづくりに貢献する高い意匠性と交通環境資材で培った技術を活用した安全機能。これからの人中心のみちづくりにおけるさまざまなシーンで、“安全・安心”に貢献する製品を提供しています。

ソーラー関連製品(照明灯)



アーバンソーラー照明灯

防護柵



フレックスロープ+手摺柵

高欄



補修高欄

車止め



あいボード DK-7

公園資材



防災ベンチ+防災シェルター

組立歩道



シティロード

シェルター



エコシェル

住建材関連製品

景観に調和するシンプルなデザインでありながら、住環境を取り巻く諸問題の解決に貢献する高機能製品を提供しています。

また、ラミネート技術と樹脂配合技術から生まれ、軽さと強さを実現した独自マテリアル「メタカラー建材」「プラメタル」が建築内外空間を美しく演出します。

メッシュフェンス



メッシュGO

装飾建材

メタカラー建材
(コーナー・メジ・巾木)

めかくし堀



アーキペイ

機能面材



ディスプレイパネルシリーズ

自転車置場



GSL

手すり製品



アプローチエレール

アルミ樹脂複合板



プラメタル

産業・生活関連事業分野

産業資材関連製品

梱包結束用バンド・フィルム



ゆうバンド

梱包資機材

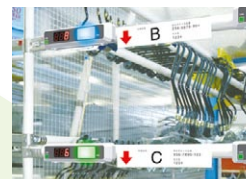
ストレッチフィルム
梱包機LSB(片持ち式
包装機)

組立システムパイプ



スペースア

デジタルピッキングシステム



キャップアイシステム

自動車部品関連製品



ドアロック フロント側

ミラー
コントロール
スイッチ

生活・緑関連製品

人や環境にやさしく、機能的な製品。斬新なデザインの生活用品や、工夫やアイデアを盛り込んだ農業・施設園芸資材が、豊かな生活環境づくりに貢献します。

物干用品

つっぱり式
窓枠ものほし

収納用品



瞬着(収納棚)

家庭日用品



うるおい(自然気化式加湿器)



あいぼう(家具転倒防止)

農業資材

イボ竹
(農園芸用支柱)パイライン
巻上パイプ

施設園芸資材



セキスイ コートバンド



獣害柵

世界の“安全・安心”“地球環境の保全”に貢献できる 企業グループを目指し、グローバル展開を進めています

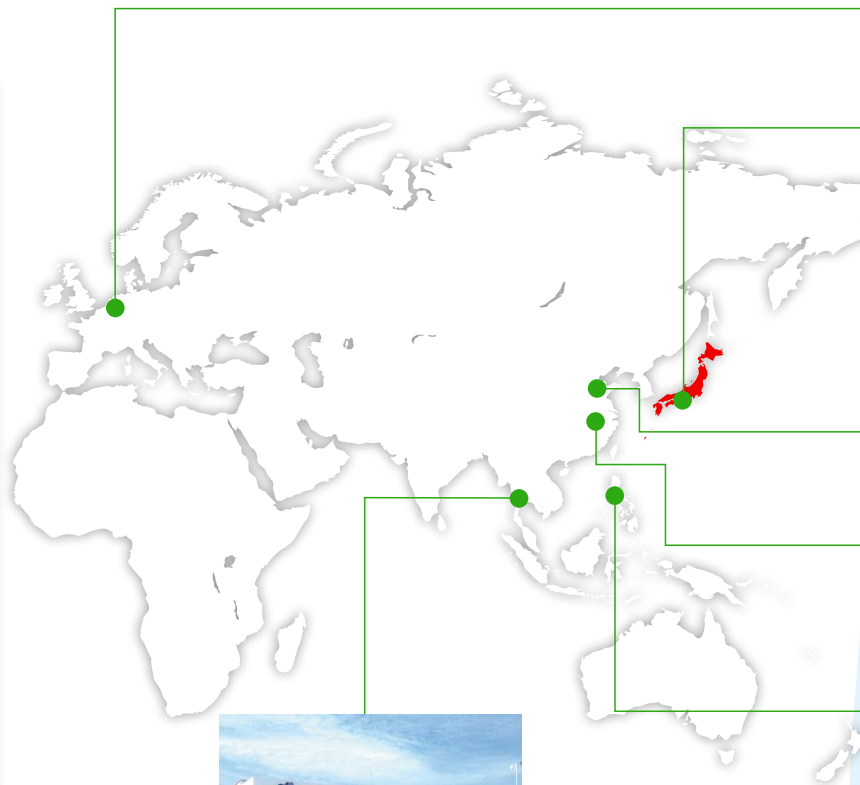
TOPICS

車線分離標「ポールコーン」

耐久性・視認性に優れたポールコーンが
ロンドンオリンピックの会場周辺道路
に採用されました。



(英国 ロンドン)



Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd
自動車部品関連製品の製造・加工・販売

Belgium



弾性車止め DK-7



エッジポインター-T-II

Netherlands



ソリッドシート

UK



ポールコーンサイン

Ireland



ポールコーンNSタイプ

France



ルミマーカー-T-II



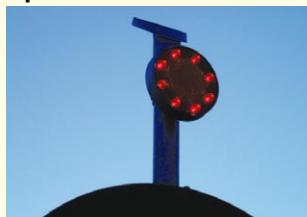
リニアポインター

Monaco



弾性車止め DK-7

Spain



サンデリー

Portugal



サンデリー

Swiss



ハイドロクリーンミラー

Austria



ポールコーンサイン



Sekisui Jushi Europe Holdings B.V.

欧州における持株会社

Sekisui Jushi Strapping B.V.

梱包用PPバンドの製造

Jislon (Europe) B.V.

交通安全製品の販売



積水樹脂株式会社

Sekisui Jushi Corporation

日本

会社数：24社（積水樹脂を含む）

従業員数：1,051人

欧州・北米

会社数：4社

従業員数：49人

アジア

会社数：5社

従業員数：334人

（2013年3月末時点）

（会社数は連結子会社の数）



青島積水樹脂有限公司

(Qingdao Sekisui Jushi Co.,Ltd)

生活用品の製造・販売

青島積水樹脂新包材有限公司

(Qingdao Sekisui Jushi Strapping Co.,Ltd)

梱包用PPバンドの製造・販売



無錫積水樹脂有限公司

(Wuxi Sekisui Jushi Strapping Co.,Ltd)

梱包用PPバンドの製造・販売



Summit Strapping Corporation

梱包用PPバンドの製造・販売

Italy



弾性車止め DK-7

Germany



ボールコーンサイン

Croatia



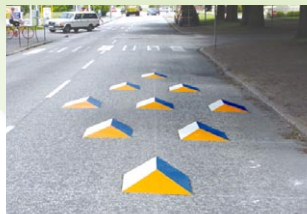
弾性車止め DK-7

Denmark



ボールコーンNSタイプ

Sweden



ソリッドシート

Finland



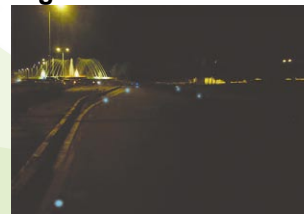
ボールコーンNSタイプ

Czech Republic



ボールコーンNSタイプ

Algeria



リアボイインター

UAE



エッジボインター-T-II

Malaysia



防音壁

Canada



ボールコーンNSタイプ

USA



ボールコーンNSタイプ

特集①

製品を通じた社会貢献

積水樹脂グループは、「社会的な課題」に対して事業を通じて解決策をご提供します。



“安全・安心”と減災への貢献

当社グループは、「これからのまちづくり」に向けて、長年培ってきた技術力を活かし、現場の状況に応じた効果的な対策を検討し、それに適した製品を提案するとともに、活動を通じて得られたご意見や知識・経験などを新製品開発に活かしています。

2012年度は、「安全・安心」と減災への貢献」をキーワードに、主に以下の取り組みを進めてきました。

「安全・安心」1

通学路の安全な
環境づくり

「安全・安心」2

生活道路
(ゾーン30)の
安心な生活
環境づくり

「安全・安心」3

自転車・歩行者の
安全対策

「防災・減災」4

災害に強い
まちづくり

1 通学路の安全な環境づくり

登下校中の児童生徒等が巻き込まれる痛ましい交通事故が相次いで発生したことを背景に、「通学路の交通安全対策」の緊急対応が必要とされています。当社は、歩行空間の安全の確保に向けて、新製品の開発を積極的に進めました。

限られた幅員にも設置可能な 高強度防護柵を開発



歩行空間の安全の確保には、車両の歩道内への進入を防止する車両用防護柵の設置が有効ですが、幅員が狭いため設置が困難な箇所がありました。この問題を解決するため、当社は限られた幅員にも設置可能な高強度セイフティパイプを開発しました。

通学路用のカラー舗装材を開発



ドライバーに通学路の存在を認識させることで、歩行空間の安全を向上させることを狙い、通学路用のカラー舗装材を開発しました。

2 生活道路(ゾーン30)の安心な生活環境づくり

自動車事故抑止のため、市街地の住宅街など「生活道路」が密集する区域を指定し、その区域での車の最高速度を時速30キロに制限する「ゾーン30」対策が、警察庁などにより進められています。当社は、「ゾーン30」対策に向けて、視覚効果により車両の走行速度を抑制させる製品を提案し、ご採用いただきました。

狭く見せることで車両速度を抑制



「ポールコーン」で道路を狭く見せるとともに、カラー舗装によりドライバーに歩道を認識させます。

進入車両の速度を抑制させるソリッドシート



立体的に見える表示材である「ソリッドシート(イメージハンブ)」を用いて、視覚効果により車両の走行速度の抑制をはかります。

3 自転車・歩行者の安全対策

自転車利用者の増加にともない、自転車と歩行者との接触事故の増加が問題となっています。当社は、接触事故を低減させるとともに、快適に自転車を利用することができる空間づくりを提案し、ご採用いただきました。

防護柵による物理的な通行区分による安全対策



防護柵により歩行者と自転車の通行を物理的に区分することで、歩行者の安全向上をはかります。



事故の多い交差点の安全対策



路面標示とサインにより注意喚起を行い、自転車の交差点への進入速度の低減をはかります。

快適に自転車を利用することができる空間づくり



案内情報を付加した車止めが、慣れない観光地での快適な自転車利用に貢献します。



4 災害に強いまちづくり

東日本復興プロジェクトの取り組み

当社は、東日本大震災発生後、「災害に強いまちづくり」への貢献を目的に、設計や開発部門の人員で構成する「東日本復興プロジェクト」を発足させ、長年培ってきた技術力を活かし、被災地の自治体などに対して、津波発生時の避難誘導対策や、その対策に貢献する製品の提案を行ってきました。

そして、この提案活動を通じて得られた意見・要望、自治体や復興に携わる設計事務所へのヒアリングなどによる情報にもとづき、被災地で必要とされている製品の開発を進めました。

採用実績のご紹介



発電ユニット（ソーラーパネル）は日の当たる場所に、照明ユニットは明るさが必要な所に設置して高台避難路の安全を確保します。



非常電源付きソーラー照明灯が避難所に採用されました。



避難場所に認定された高規格道路の路側に、ソーラー照明灯などが採用されました。



防災用品（釜、ビニールシートなど）を収納できる「収納ベンチ」、非常時に炊き出し用のかまどとして使用することができる「かまどベンチ」をセットでご採用いただきました。



サイン上部に設置したソーラーLED小型照明灯「ソーラールミ T2」が夜間停電時においても避難誘導情報を見やすくします。



支柱型サインをロープ柵支柱として使用することで、避難路案内と転落防止に活用されています。



「東日本復興プロジェクト」のホームページ

「東日本復興プロジェクト」の最新の活動状況をご報告するとともに、「減災・災害対応製品展示場」や当社の製品についてご紹介しています。

「東日本復興プロジェクト」のご紹介ホームページアドレス

<http://www.sjc.gr.jp/thpro/index.html>

TOPICS

「減災・災害対応製品展示場」 で対策製品を展示中

東日本大震災発生後に関係会社の東北積水樹脂株式会社(宮城県柴田郡柴田町)の敷地内に「減災・災害対応製品展示場」を開設しました。被災地の復興に欠かせない製品の提案を迅速に行うことで、復旧・復興の早期実現に貢献できるよう、多くの方々に製品をご覧いただいています。



■ 避難路エリア

津波の被害を受けるおそれのある地域での「学習・啓発」、「災害発生情報提供」に適した製品や、避難場所への「避難誘導」対策に適した製品を展示しています。



昼夜を問わず災害の危険をいち早く知らせ、避難経路をわかりやすく誘導する案内・誘導サインや手摺欄、防風・防雪柵、自発光緑石鎮などを展示しています。

■ 避難場所エリア

日頃は憩い・安心を提供し、災害発生時には災害対応に使える街路・公園資材や仮設住宅向けの資材を展示しています。



避難場所への設置を提案しているソーラー発電シェルター、ソーラー照明灯、災害対応ベンチなどを展示しています。

■ 展示場の所在地とお問合せ先

〒989-1743 宮城県柴田郡柴田町大字四日市場字二本木86-1
積水樹脂株式会社 東北支店 TEL:0224-58-7552 FAX:0224-56-5562

ラウンドアバウトへの切り替え工事に当社製品が採用されました

交差点渋滞緩和のために、全国初の信号交差点からラウンドアバウトへの切り替えが長野県飯田市東和町交差点で行われ、交通安全対策として当社製品が採用されました。



「ラウンドアバウト」は、信号撤去により停電時でも機能する、環境にやさしい交差点整備手法です。ラウンドアバウト型の交差点は、路面標示によるドライバーへの案内が重要であることから、夜間雨天時でも再帰反射し、長期にわたり高い夜間視認性を維持する「ジスラインスーパープレミアム」が採用されました。



ラウンドアバウトの入口部に近づいた車をドライバーに注意喚起するために、当社の「ボールコーン」や「セイフティーライトO型」が停止線手前に設置されました。



ラウンドアバウト内の横断歩道において、歩行者の安全を確保するため、当社の路面標示材で歩行者への注意喚起が行われています。

「ラウンドアバウト」とは、環道車両が優先される円形交差点の一種です

交差点の中央に円形地帯(中央島)が設けられた円形交差点の一種で、車は中央島に沿った環状の道路(環道)を左回りの一方向に通行し、目的の道路に流出します。

ラウンドアバウトの利点

- ・交差点手前で一旦停止で重大事故を抑制
- ・無駄な信号待ち時間を解消しCO₂を削減
- ・信号機の維持管理費の削減
- ・停電時も機能し、災害に強い



特集②

生物多様性の保全に向けた取り組み

積水樹脂グループは、様々な環境活動主体と連携し、「生物多様性の保全」と「持続可能な利用」に積極的に取り組んでいます。



積水樹脂グループ生物多様性保全の活動方針

積水樹脂グループは、「生物多様性の保全」を社会的責任の重要な一つと捉え、事業活動による生物多様性への負荷を認識し回避・低減することで「生物多様性の保全」及び「持続可能な利用」に努めます。

指針 1

地球環境調和型製品の開発・普及を通じて、生物多様性の保全に貢献します。

指針 2

省エネルギー、省資源、廃棄物・有害化学物質使用削減等に継続して取り組み、環境負荷の低減に努めます。

指針 3

社会貢献活動として、事業所の立地する自然環境に応じた生態系の保全活動を推進します。

指針 4

生物多様性に関係する諸団体との連携を深めると共に、情報発信を積極的に行い「生物多様性の保全」の普及に努めます。



「国連生物多様性の10年日本委員会」への協賛を継続

「国連生物多様性の10年日本委員会」より感謝状を授かりました

生物多様性の保全と持続可能な利用に資する活動に協賛するべく、2010年より環境省とともに「国連生物多様性の10年日本委員会」に継続して支援を行っています。

2012年11月にこれまでの継続的な支援が認められ、同委員会より感謝状を授かりました。



TOPICS

同委員会が発行する生物多様性小冊子「Iki・Tomo」(Vol.04 2013年冬号)に、当社社長のメッセージが「企業と生物多様性」の第1回として掲載されました。

詳細は、「国連生物多様性の10年日本委員会」の公式ホームページでご確認いただけます。

<http://undb.jp/committee/tool/ikitomo/>



生物多様性小冊子「Iki・Tomo」

森林保全活動への参加

石川工場が森林保全活動を開始 日本海沿岸砂地に抵抗性クロマツを植樹

2012年12月7日、当社の石川工場は石川県能美市、道林釜屋山林組合、根上森林連合会、石川県南加賀農林総合事務所との間で「企業の森づくり推進事業協定」を締結し、森林保全活動を開始しました。2013年3月16日に、第1回の活動が行われ、能美市道林町の日本海沿岸の砂地に抵抗性クロマツ100本の植林を行いました。今回植林したクロマツが立派な防風林に成長するよう森林整備を継続して行います。



石川工場における森林保全活動

VOICE

2012年度は、積水樹脂(株)石川工場と「企業の森づくり推進事業協定」を締結し、第1回目となる抵抗性クロマツの植樹を、石川工場の従業員とその家族および地域住民の方々と行いました。植栽活動を終えた後は、周辺の被害木を集めるなど、松林の清掃作業を行いました。これからも松林の保全に共に取り組んでいきたいと考えております。



根上森林連合会 事務局長
山本 欽次 さん

滋賀工場、積水樹脂プラメタル(株)が 森林保全活動を継続

滋賀工場は2010年11月より、また、積水樹脂プラメタル(株)は2011年9月より、それぞれ森林保全活動を継続して実施しています。



滋賀工場における森林保全活動
2012年10月13日



積水樹脂プラメタル(株)における森林保全活動
2012年6月2日

滋賀工場における新たな取り組み

ヨシ刈りボランティア活動の実施

2013年2月10日、当社の滋賀工場は、琵琶湖の水質保全活動として、「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」に参画し、滋賀県近江八幡市の西の湖にて、ヨシ刈りボランティア活動を実施しました。前日の積雪が残る足元の悪い中、従業員とその家族がヨシの刈り取り作業に励みました。



滋賀工場における取り組み



ヨシ刈りの様子

TOPICS

滋賀県森林CO₂吸収認証を 取得しました

滋賀工場では、2010年度より「琵琶湖森林づくりパートナー」として、森林保全活動を継続しています。この活動による年間の森林CO₂吸収量が、滋賀県「森林CO₂吸収量認定制度」の認証を受けました。



森林 CO₂ 吸収量認証

特集③

積水樹脂の社会貢献活動



新たな社会貢献活動「積水樹脂サッカースクール」

青少年の育成を目的とした取り組みです

全国3ヵ所(京都府京都市、宮城県石巻市、北海道札幌市)の当社人工芝の納入グラウンドにおきまして、元サッカー日本代表の釜本邦茂さんを講師とした「積水樹脂サッカースクール」を、地域のサッカークラブに所属する小学生を対象に開催しました。

子供たちやその保護者をはじめとする地域みなさんに喜んでいただくとともに、当社の人工芝への理解を深めていただく貴重な機会となりました。



全国3ヵ所で多数の方々にご参加をいただきました

第1回目開催(京都府京都市)

日時: 2013年4月20日 13時~16時
会場: 京都市 宝が池公園運動施設球技場



京都市 宝が池公園運動施設球技場

第2回目開催(宮城県石巻市)

日時: 2013年7月25日 13時~16時
場所: 石巻市 上釜ふれあい広場サッカー場



石巻市 上釜ふれあい広場サッカー場

第3回目開催(北海道札幌市)

日時: 2013年7月26日 13時~16時
場所: 札幌市 東雁来公園サッカー場



札幌市 東雁来公園サッカー場

事業と関連する諸団体を通じた社会貢献活動

交通遺児育英会への寄付を継続

2011年より、交通安全に携わる企業として「公益財団法人 交通遺児育英会」に対し、車線分離標「ポールコーン」の収益の一部を寄付する取り組みを継続して行っています。この活動が認められ、2012年8月に褒状を授かりました。



公益財団法人 交通遺児育英会ホームページアドレス <http://www.kotsuiji.com/>



褒状



車線分離標「ポールコーン」

道路上のゼブラゾーンや中央線上などに設置する柱状の製品で、走行レーンの明示、車線の分離、カーブ地点などでの視線誘導を行います。本体はウレタン製で車両の接触時にも速やかに自立復帰します。開発、製造開始から四半世紀を経過し、その高い復元性能や視認性からご好評いただいている、交通安全用品の主力製品です。



ポールコーン



ポールコーンガード



奥 ポールコーン
手前 ポールコーンルミ



ポールコーン製品ホームページアドレス <http://www.sjc.gr.jp/traffic/product/preservation.html>

環境報告

地球のために。 子供たちの未来のために。

積水樹脂グループは、持続可能な発展にむけて環境保全、環境教育、環境調和型製品の開発及びCO₂排出量削減などの取り組みを推進しています。

環境経営理念

我々は、かけがえのない母なる「地球」を、環境破壊・資源枯渇等、地球環境問題から保護することを最重要課題と認識し、地球に優しい環境調和型製品・事業活動を通じて「地球と人類の永続的調和」及び「人間性豊かな生活環境づくり」に貢献します。

環境経営方針

「資源は節減・循環、廃棄はゼロ、環境は改善・保全」

1. 地球環境に対し、「廃棄はゼロ、環境は改善・保全」を通じて社会的責任を果たします。
2. 地球環境調和型製品の開発を通じて、「資源は節減・循環」に貢献します。

写真：綿向山（滋賀県蒲生郡日野町）

綿向山で「琵琶湖森林づくりパートナー」協定に基づき森林保全活動を進めています。

第4次環境3ヵ年計画(2010～2012年度)の全20項目のうち17項目で目標達成率90%以上となりました。今後は、より高い目標に向け取り組みの拡大を目指します。

第4次環境3ヵ年計画(2010～2012年度)環境活動の取り組み

地球環境調和型製品の取り組み →19ページ

<目標>

地球環境調和型新製品

- ・売上高比率:35%以上
- ・上 市 数:40件以上

<実績>

売上高比率

26.0%

上市数

40件

CO₂排出量削減の取り組み →23・24ページ

生産事業所

<目標>

CO₂排出量原単位 ※
(2005年度比)

21.5%以上削減

<実績>

26.9% 削減

廃棄物排出量削減の取り組み →24ページ

<目標>

有価物含む廃棄物発生量
(2005年度比)

- ・排出量:37%以上削減
- ・原単位:36%以上削減

<実績>

排出量

34.5% 削減

原単位

32.1% 削減

オフィス

<目標>

CO₂排出量原単位 ※
(2005年度比)

20%以上削減

<実績>

38.0% 削減

第4次環境3ヵ年計画(2010～2012年度)の総括

第4次環境3ヵ年計画で設定した、全20項目のうち17項目で目標達成率90%以上と、取り組みを拡大することができました。特に、国内オフィスにおいては、複合機の更新やエアコン稼働台数の低減などにより、CO₂排出量削減率が、2005年度比で38.1%と目標の20%削減を大幅に上回る成果が得られました。一方で、地球環境調和型製品の売上比率目標については目標未達となったものの、この3ヵ年で着実に数字を伸ばしています。→27ページ

新たな環境3ヵ年計画に向けて

第5次環境3ヵ年計画(2013～2015年度)の策定

より高い環境目標を掲げた「第5次環境3ヵ年計画」を策定し、積水樹脂グループ全体で環境経営を推進していきます。第4次環境3ヵ年計画では対象としていなかった海外拠点についても、CO₂および廃棄物排出量削減などの環境目標を設け、グローバルな環境経営をはかります。また、国内事業所においては、CO₂および廃棄物排出量削減を更に推進するとともに、環境保全活動の拡大や環境コミュニケーションの強化など、生物多様性保全への取り組みの拡大を目指します。→28ページ

※ 原単位 製品の一定量を生産するのに必要な各生産要素(エネルギー、原材料など)の量及び排出される環境負荷量(CO₂、廃棄物)です。

製品の開発・設計から使用・廃棄までのあらゆる段階で環境に配慮した地球環境調和型製品を通じて、環境負荷の低減に取り組んでいます

地球環境調和型製品とは

社内基準を満たす環境面で有利な製品です

地球環境調和型製品は、以下のいずれかの社内基準を満たす、環境面で有利な製品をいいます。

基準 1

製品のライフサイクルのいずれかの段階において環境負荷を低減させるように設計された製品

基準 2

納入先が指定する環境基準を満足するように設計された製品

基準 3

エコマークおよび各自治体の環境認定基準に適合した製品

地球環境調和型製品の売上高比率と新製品数

製品売上高比率は26.0%、新製品数は40件

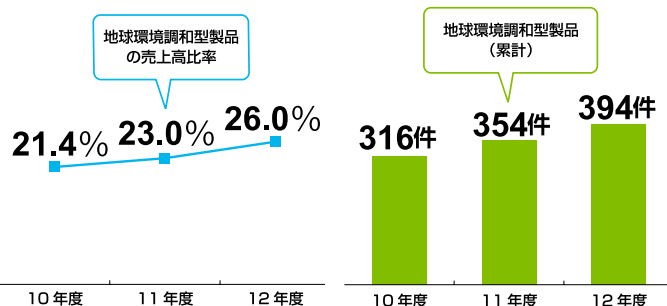
当社グループは、事業活動を通じた環境負荷低減への取り組みとして、地球環境調和型製品の開発と普及を推進しています。2012年度の地球環境調和型製品の売上高比率は26.0%と、目標とする35%以上には届かなかったものの、2011年度より3ポイント高い数値となりました。

また、2012年度の新製品数は40件と、2011年度比で2件増加しました。今後も、地球環境調和型製品の更なる開発と普及に注力していきます。

プラス
40件
2012年度
増加分

地球環境調和型製品の
売上高比率

地球環境調和型製品(累計)



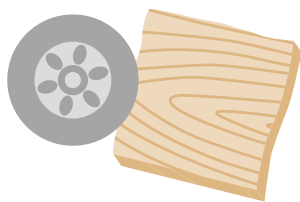
地球環境調和型製品の売上高比率は、以下の式により算出します

$$\text{地球環境調和型製品の売上高比率} = \frac{\text{地球環境調和型製品売上高} \text{ (※1)}}{\text{全製品売上高} \text{ (※2)}}$$

(※1) 2002年度以降認定された地球環境調和型製品の当該年度の売上高

(※2) 当該年度の製品売上高合計

地球環境調和型製品のご紹介



再生材の利用

廃プラスチックや廃木粉、
廃タイヤゴムなどを再利用
し製品化しています。



オレンジウッド高欄（廃プラスチック再生人工木）



DK-5（廃タイヤチップ弾性車止め）



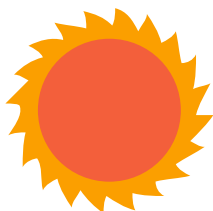
ブライテックス（環境配慮型梱包用バンド）



オレンジウッド かまどベンチ（廃プラスチック再生人工木）



DK-9（再生ゴム 弾性車止め）



太陽エネルギー の利用

太陽電池使用でCO₂排出量
削減に貢献



フレックスフラッシュ



セバレット型ソーラーLED照明灯



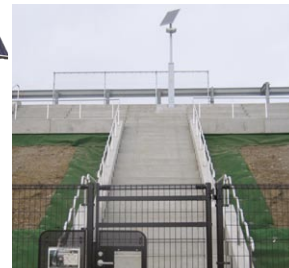
SLキャップ 柵支柱取付



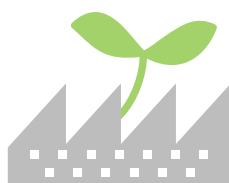
ボールコーン lumi



アーバンソーラー照明灯



ソーラールミT2(標識取付)



生産工程での 環境負荷低減

- ・生産時の離型紙を削減
- ・パネル部材の無溶接化



ジスラインS ゾーン30



ジスラインS 離型紙レス



勾配対応柵（フレックスロープ）



フレックスロープ+組立歩道



パネル部材の無溶接化(リベット取付)



CO₂削減



うるおい（自然気化式加湿器）



エコ給電（電気自動車給電機）

交通環境資材関連製品



車道・歩道用シート標示材 ジスラインS

通学路、生活道路(ゾーン30)での安全対策に活用されているジスラインSの製造ラインをリニューアルし、製造過程で発生していた紙ゴミの低減を実現しました。

■離型紙レスでゴミ削減 約1トン/月

環境負荷を低減するために、製造時に使用していた離型紙を削減可能なラインへのリニューアルを行いました。結果、約1トン/月の紙ゴミ低減を実現しました。



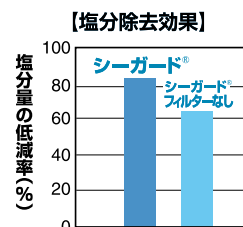
街路・橋梁関連製品



塩害防止柵 シーガード

潮風の塩分を除去することで、沿岸地の構造物などを塩害から守り長寿命化する機能を備えたフェンスです。

風を通す独自の構造によって、潮風の吹き上げを大幅に抑制し、また、フィルターが潮風に含まれる海塩粒子を吸着し濃度を低減します。



塩害対策で
構造物の
長寿命化

産業資材関連製品

ゆうバンド

環境に配慮した「リターナブルコア」を採用し紙管を削減しました。



廃棄物
削減

生活・緑関連製品

自然気化式ECO加湿器 うるおいブロッサム

自然の力を利用して水を気化させる電気を使わない「ECO加湿器」です。



- コップ1個の自然蒸発量の約35倍
※いちりんタイプは約10倍
- 抗菌防カビ加工済
- 紙作家とのコラボレーション

Blossom

CO₂
削減

産業資材関連製品

デジタルピッキングシステム 省電力型アンサーキット ACC18731M

表示部に液晶を採用することで、消費電力を従来の同等機種から半減しました。



■視認性の向上

汎用液晶にありがちな視認性の悪さを回避するため、白色背景に黒色文字を採用することにより、コントラストを上げ、視認性を向上させました。

■従来機種との併用可能

ダクトタイプ及びFタイプ(パイプブラック用)に対応させることにより、従来機種との併用を可能にしました。

(積水樹脂キャップアイシステム株式会社)

CO₂
削減

スポーツ・人工木関連製品



エクステリア用人工芝 ガーデングラス
一般的な人工芝に比べ、芝葉の傷みが少なく、耐久性に優れています。

ガーデングラス(試験後) 一般的な人工芝(試験後)



長寿命化で
ゴミ低減

磨耗試験結果

[リポート試験*] 5000回

*本試験は、国際サッカー連盟や(財)日本サッカー協会が採用している人工芝の耐久性評価方法の一つです。

街路・橋梁関連製品



発電ユニット・照明ユニット分離型 セパレート型ソーラーLED照明灯

日照条件の悪い避難道の整備に有効なソーラー照明灯です。

■発電ユニットと照明ユニットを分離して設置することで、日照条件の悪い現場に対応できます。

■合計3灯の照明ユニットを最大60m離して設置することができます。



太陽
エネルギー
の利用

住建材関連製品

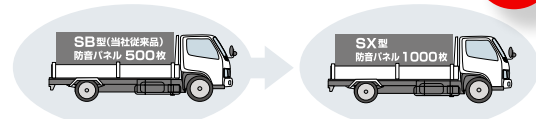
仮設防音パネル ビルガードSX 一般社団法人 仮設工業会認定品

フレームの段付構造により、当社従来品に比べて輸送効率や保管効率が2倍になります。

■輸送効率2倍

輸送効率が2倍になり、輸送にかかるCO₂を削減できます。(当社従来品SB型との比較)

輸送効率



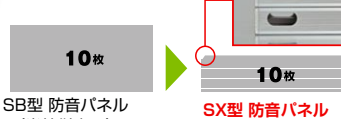
※10t 車平ボディ車積載イメージ

効率
2倍!

■保管効率2倍

仮設機材保管ヤードの省スペースがはかれます。(当社従来品SB型との比較)

保管効率



SB型 防音パネル
(当社従来品)

SX型 防音パネル

効率
2倍!



(積水樹脂ブラメタル株式会社)

CO₂
削減

環境報告

産業資材関連製品

生産・物流ライン用 組立システムパイプ 軽量型スパホイール(JB-800シリーズ)

ホイールとフレームが分離可能で、ホイールの再利用や分別廃棄などリサイクル性に優れています。

■軽量化の実現

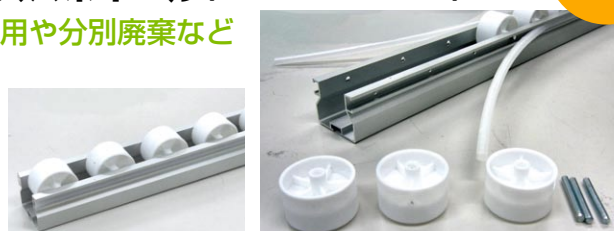
フレームをスチール製からアルミ製に変更することで、当社従来品(スチールタイプ)よりも約40%の軽量化を実現しました。

■自在な生産・物流ライン配置が可能

スペーシアフレームと組合せ、自在な生産・物流ライン形状を構成可能で、変更も容易です。

■優れた静粛性

樹脂製のホイール軸カバーを使用しているためフレームと軸との接触音が少なく、作業場の騒音改善にも役立ちます。



◆当社従来製品との重量比較(1mあたり重量:g)

	50mm ピッチ	40mm ピッチ
スチールタイプ(従来品)	1,250	1,280
アルミタイプ	745	810

(スペーシア株式会社)

廃棄物
削減

エネルギー使用量、CO₂・廃棄物排出量削減を環境経営の重要課題と位置づけ、生産・オフィス部門でさまざまな取り組みを行っています。

生産事業所のエネルギー使用量、CO₂排出量削減への取り組み

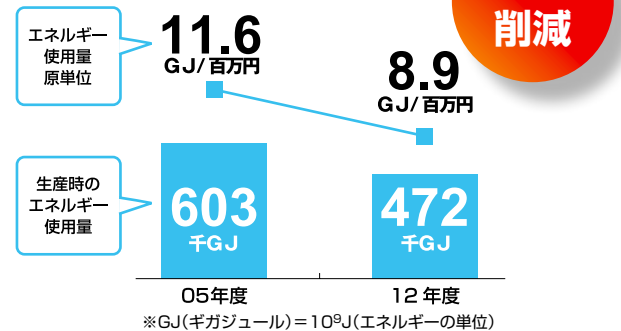
エネルギー使用量原単位23.3%削減、CO₂排出量原単位26.9%削減(2005年度比)

生産事業所において、生産プロセスや空調・照明設備等の改善・適正管理を行い、生産時のエネルギー使用量や、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

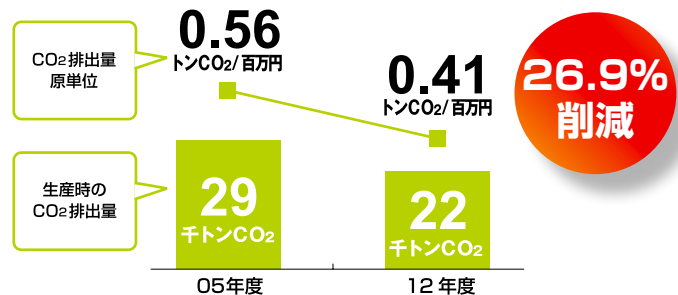
2012年度は、2005年度比でエネルギー使用量原単位23.3%、CO₂排出量原単位26.9%削減しました。

今後も、生産プロセスの改善や省エネ設備の導入、エネルギーの見える化・節電対策など、ハード・ソフトの両面から、省エネ活動の強化をはかっていきます。

生産事業所生産時のエネルギー使用量と原単位



生産事業所生産時のCO₂排出量と原単位



節電・ピーク電力削減への取り組み

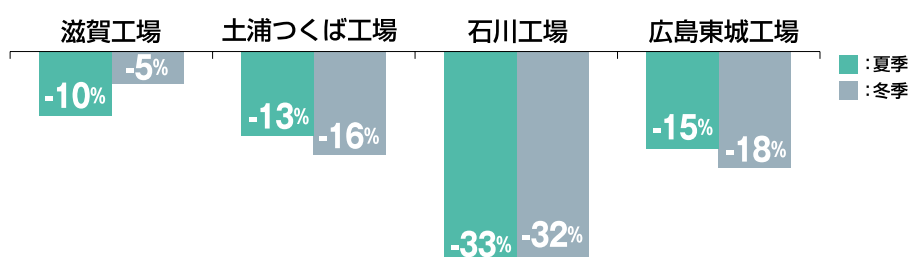
ピーク電力を夏季最大33%、冬季最大32%削減(2010年度比)

電力不足が懸念される中、積水樹脂グループは、各電力会社からの節電要請に対応すべく、省エネ活動やピーク時間を避けた生産などに取り組みました。また、各事業所に設置してある電力デマンド監視装置により、電力使用量をリアルタイムで計測し、設定しておいた電力量に近づいた際には警報など

により通知し所定の設備や機器を停止することでピーク電力の削減に取り組みました。

これらの取り組みにより、各工場においては2010年度比で夏季約10～33%、冬季約5～32%のピーク電力の削減をすることができました。

自社工場におけるピーク電力削減実績(2010年度比)



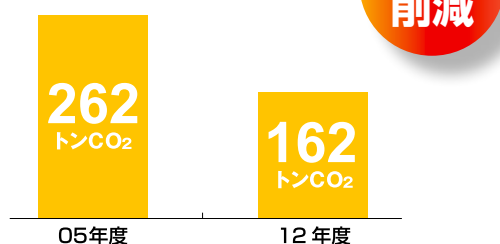
オフィスにおける省エネルギーの推進

オフィスのCO₂排出量 38%削減 (2005年度比)

オフィスにおいても省エネ・節電の取り組みを推進しています。2012年度は、本社、支店および主要営業所において、複合機等を省エネタイプに更新し、設置台数を2011年度の約半分まで減らしました。また、エネルギー消費量の大きいエアコンについては、稼働台数を必要最低限に低減しました。これらの取り組みにより、2012年度のCO₂排出量削減実績は、2005年度比で約38%削減となり、2012年度目標を達成しました。

今後もクールビズ推進、パソコン・ディスプレイの省電力モード化等の省エネ活動を、当社グループ全体で継続して取り組んでいきます。

オフィスのCO₂排出量



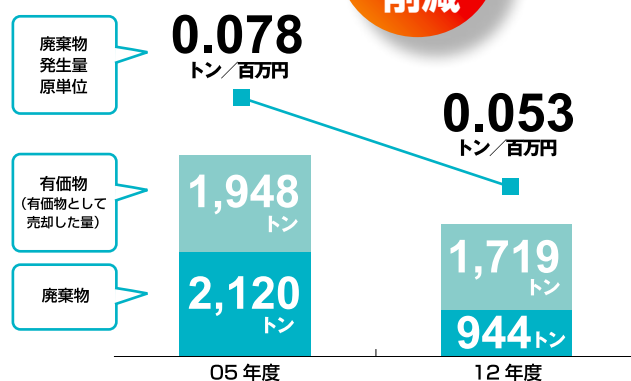
生産事業所における廃棄物削減の取り組み

有価物も含めた廃棄物の削減に 取り組んでいます

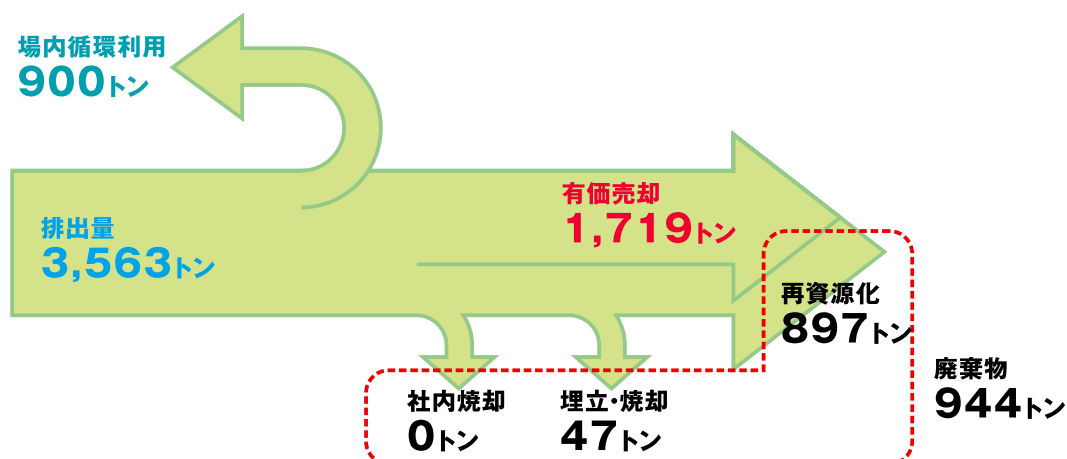
2010年度より、「排出物」の削減を目的として、有価物を含めた廃棄物の削減目標を設定し、取り組みを行っています。各生産事業所においては、生産工程における歩留まり改善、不良率の低減活動を推進し、2012年度における廃棄物削減量は2005年度比で34.5%となりました。

今後も、「3R」(Reduce: 廃棄物の発生抑制、Reuse: 再使用、Recycle: 再資源化)活動を継続し、排出物の削減につとめます。

廃棄物排出量と原単位 ※



※ 原単位 製品の一定量を生産するのに必要な各生産要素(エネルギー、原材料など)の量及び排出される環境負荷量(CO₂、廃棄物)です。



環境中への排出削減の取り組みや原材料の変更により 化学物質による環境影響の低減につとめています

2012年度のPRTR対象化学物質の排出量・移動量

PRTR法(※1)に基づく対象物質排出量・移動量の集計結果は以下のとおりです。

PRTR 対象化学物質名	単位	2012 年度実績						
		取扱量	排出量			移動量		場内無害化 (※2)
			大気への 排出量	公共用水域 への排出	当該事業所 における 土壌への排出	下水道への 排水の移動	廃棄物の 当該事業所の 外への移動	
エチルベンゼン	トン	29.8	3.4	0.0	0.0	0.0	2.0	24.4
キシレン	トン	31.7	4.8	0.0	0.0	0.0	1.7	25.2
6価クロム化合物	トン	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1,3,5-トリメチルベンゼン	トン	5.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	4.7
トルエン	トン	11.4	4.7	0.0	0.0	0.0	6.6	0.1
鉛及びその化合物	トン	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	トン	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メチルナフタレン	トン	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
2,6-ジターシャリーブチル-4-クレゾール	トン	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	トン	122.6	13.3	0.0	0.0	0.0	10.6	55.7

年間取扱量が全社合計で0.5トン以上のPRTR対象化学物質について記載

PRTR対象化学物質排出量・移動量削減への取り組み

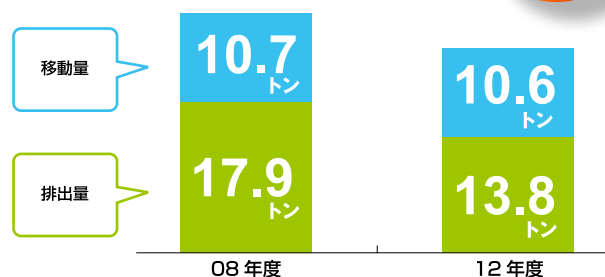
PRTR対象化学物質を14.7%削減(2008年度比)

PRTR対象化学物質の削減のために、対象化学物質の非含有タイプ原材料への切り替えや、製造プロセスにおける使用効率の改善などに取り組んでいます。また、当社グループ共通の化学物質管理の指針を策定し、グループ全体で、化学物質の使用量管理、紛失・盗難防止の強化にもつとめています。2012年度のPRTR対象化学物質排出量・移動量は、2008年度比で14.7%削減となりました。

(※1) PRTR法

PRTR法とは正式名称を「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」といいます。人の健康や生態系に有害なおそれがある化学物質について環境中への排出量及び廃棄物に含まれての移動量を事業者が自ら把握して、行政に報告し、さらに行政は事業者からの報告や統計資料を用いた推計に基づき排出量・移動量を集計・公表する制度です。

PRTR対象化学物質排出量・移動量



(注) 年間取扱量が全社合計で0.5トン未満のPRTR対象化学物質も含めていますので、上記の表の数値とは一致しません。

(※2) 場内無害化

製造プロセスにて発生した溶剤ガスを焼却分解し無害化したものです。

使用済製品の回収・リサイクルによりCO₂の削減に取り組んでいます

広域認定制度を活用した公共用製品のリサイクルへの取り組み

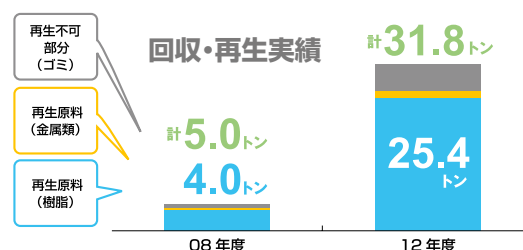
使用済みの樹脂製視線誘導標を31.8トン回収・再生

当社は、資源の有効利用・廃棄物削減のため、当社独自素材であるジスロンパイプを使用した樹脂製視線誘導標(デリニエーター・スノーポール)について広域認定制度の認定を取得しています。(認定日:2008年6月12日、認定番号:第145号)広域認定制度に基づくリサイクルシステムを構築し、使用後廃棄処理される樹脂製視線誘導標を、再度、原料として活用することで、建設廃材を他分野に流出させず、確実な環境負荷低減をはかっています。

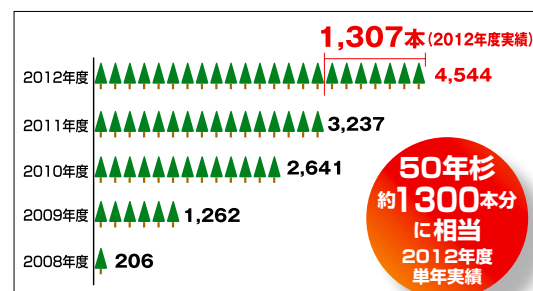
CO₂排出量を18.3トン(※2)削減

使用済品の回収から再生原料化(25.4トン)の過程で発生するCO₂は、バージン原料製造(資源採掘・採取から原料製造)の過程で発生するCO₂の約半分です(※1)。

広域認定制度に基づくリサイクルを実践することで、CO₂排出量削減にも貢献しています。



CO₂排出削減量 年間累積合計 50年杉換算(本) (※3)



環境報告



広域認定に基づくリサイクルの対象製品

デリニエーター



スノーポール



広域認定制度とは？

製品が廃棄物となったものであって、当該廃棄物の処理を当該製品の製造、加工、販売等の事業を行う者が広域に行うことにより、当該廃棄物の減量その他その適正な処理が確保されることを目的として、廃棄物処理業に関する法制度の基本である地方公共団体毎の許可を不要とする特例制度です。

- (※1) バージン原料1kgあたりのCO₂排出量:1.43kg(プラスチック廃棄物の処理・処分に関するLCA調査研究報告書(プラスチック処理促進協会)より)
再生原料1kgあたりのCO₂排出量:0.71kg(2008年度の回収・再生実績を基に各工程でのCO₂排出量を算出)
- (※2) CO₂削減量は、再生原料(樹脂)重量(25.4t)に、(※1)のCO₂排出量の差(0.72kg)を乗じて算出しています。
- (※3) 50年生のスギ人工林1本当たりの年間二酸化炭素吸収量を約14kg(岐阜県の収獲予想表に基づく試算値)として試算しています。
(「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」環境省・農林水産省 林野庁作成のパンフレットより抜粋。)

「第4次環境3ヵ年計画」における実績総括としては、全20項目のうち17項目で目標達成率90%以上となりました

第4次環境3ヵ年計画(2010～2012年度)の実績

◎:達成率100%以上 ○:達成率90%以上 △:達成率90%未満

取り組みの項目				2012年度目標(3ヵ年)	2012年度実績	評価
事業・製品による環境貢献	地球環境調和型製品の拡大	地球環境調和型製品の売上拡大		地球環境調和型製品の売上高比率を35%以上	26.0%	△
		地球環境調和型製品の開発促進		地球環境調和型新製品数40件/年以上	40件	◎
事業活動における環境負荷の低減	温室効果ガス排出の削減	活動ごとのCO ₂ 排出量削減	国内生産事業所(関係会社含む)	CO ₂ 排出量を原単位で2005年度比21.5%以上削減	26.9%	◎
			国内オフィス(支店・営業所)	CO ₂ 排出量を2005年度比20%以上削減	38.0%	◎
			営業車(関係会社含む)	エコカー・ハイブリットカーの導入率100%	99%	○
		省エネルギーの推進	国内生産事業所(関係会社含む)	エネルギー使用量の生産量原単位を2005年度比19%以上削減(省エネ法:エネルギー消費原単位年平均1%削減)	23.3%	◎
			国内輸送時	エネルギー原単位を2005年度比20%以上削減	21.4%	◎
	資源の有効活用	廃棄物削減	国内生産事業所(関係会社含む)	廃棄物排出量を2005年度比37%以上削減(場内リサイクル除く、有価含)	34.5%	○
				廃棄物排出量を原単位で2005年度比36%以上削減(場内リサイクル除く、有価含)	32.1%	△
			国内オフィス(支店・営業所含む)	コピー用紙使用量を2005年度比20%以上削減	10.5%	△
		ゼロエミッション拡大	国内生産事業所	対象事業所の達成率100%	ゼロエミッション活動継続	○
	化学物質削減	国内生産事業所		PRTR法に基づく化学物質排出・移動量を2008年度比15%削減	14.7%	○
環境経営の基盤強化	環境マネジメント体制の拡大	国内生産事業所のEMS外部認証取得		対象事業所のEMS外部認証率100%	認証継続	◎
		グリーン調達拡大		FSC認証紙の導入/名刺・カタログへの導入	名刺への導入開始	◎
	教育・啓発の強化	環境知識の習得		ECO検定取得(全従業員を対象として取得推進)全従業員への環境教育実施	イントラネットにて環境情報の発信	◎
	外部とのコミュニケーション	サイトレポートの発行		生産事業所、主要関係会社で発行	サイトレポートのHP開示	◎
		地域との環境コミュニケーション		国内生産事業所で実施	継続して実施	◎
生物多様性への配慮	環境貢献活動	生物多様性 民間参画ガイドラインに基づく活動		地球生きものサポーターとして国際生物多様性年国内委員会の活動に協賛	継続して活動	◎
				自然環境保護関連団体への支援	継続して実施	◎
				地域と連携した自然保護活動(自社工場並びに関係会社)	・森林保全活動 ・ヨシ刈り	◎

より高い環境目標を掲げた「第5次環境3ヵ年計画」を策定し、積水樹脂グループ全体で環境経営を推進していきます

第5次環境3ヵ年計画(2013~2015年度)

海外拠点についても、CO₂および廃棄物排出量削減などの環境目標を設け、国内事業所においては環境保全活動の拡大や環境コミュニケーションの強化など、生物多様性保全への取り組みの拡大をはかります。

取り組みの項目			第5次環境3ヵ年計画(2015年目標値)
事業・製品による環境貢献	地球環境調和型製品の拡大	地球環境調和型製品の売上拡大	地球環境調和型製品の売上高比率を35%以上
		地球環境調和型製品の開発促進	地球環境調和型新製品数50件/年以上
事業活動における環境負荷の低減	温室効果ガス排出の削減	国内生産事業所(関係会社含む) ※関係会社はオフィス部門も含む	CO ₂ 排出量を原単位で 2012年度比4.5%以上削減
		海外生産事業所 3拠点 Sekisui Jushi Strapping B.V. Summit Strapping Corporation Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd	CO ₂ 排出量を原単位で 2012年度比3%以上削減
		国内オフィス(支店営業所)	CO ₂ 排出量を 2012年度比1.5%以上削減
		営業活動によるCO ₂ 排出量削減	営業車(関係会社含む) ハイブリット車、電気自動車の導入率80%
		省エネルギーの推進	国内生産事業所(関係会社含む) エネルギー使用量を原単位で 2012年度比4.5%以上削減
			国内輸送時 エネルギー原単位を 2012年度比3%以上削減
	資源の有効活用	国内生産事業所(関係会社含む)	廃棄物排出量を原単位で 2012年度比6%以上削減 (場内リサイクル除く、有価含)
		海外生産事業所 3拠点 Sekisui Jushi Strapping B.V. Summit Strapping Corporation Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd	廃棄物排出量を原単位で 2012年度比3%以上削減 (場内リサイクル除く、有価含)
		国内オフィス(支店営業所)	コピー用紙使用量を 2012年度比5%以上削減
	化学物質削減	国内生産事業所	PRTR法に基づく化学物質排出量を 2012年度比3%以上削減
生物多様性への配慮	環境貢献活動	環境保全活動の拡大 従業員への環境教育カリキュラムの設定 (生物多様性保全の取り組み拡大)	森林保全活動参加者(延べ人数):300名 ・滋賀工場 ・石川工場 ・積水樹脂プラメタル
			水質保全活動参加者(延べ人数):100名 ・滋賀工場
			海外拠点における環境保全活動の実施
			事業所に生息する貴重種の保護
	環境コミュニケーションの拡大		自然環境保護団体との連携および活動支援
			地域住民との環境コミュニケーション および環境保全活動の実施



滋賀工場

滋賀製造所

所在地: 滋賀県蒲生郡竜王町大字西川字下中筋1321
 主要生産品目: 防護柵・交通安全資材・人工木材・シェルター
 設立年月: 1971年5月
 敷地面積: 61,569㎡



滋賀製造所

竜王鏡製造所

所在地: 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
 主要生産品目: 防音壁・メッシュフェンス・高欄・装飾建材
 設立年月: 1987年6月
 敷地面積: 129,415㎡



竜王鏡製造所(竜王)

活動報告

ヨシ刈りボランティアに参加

2012年度は、新たな環境ボランティア活動として、「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」に参画し、「西の湖ヨシ刈りボランティア活動」を実施しました。ヨシはびわ湖の水質浄化に寄与していますが、冬の時期に枯れたヨシを刈り取らないと翌年に元気なヨシが育たないため、行政、企業、市民団体などが、ヨシ刈りをボランティアで実施しています。刈り取ったヨシの一部は古紙などと合わせてリサイクルペーパーなどに活用されています。



ヨシ刈りボランティア活動の様子

森林保全活動

2010年度より「琵琶湖森林づくりパートナー」として森林保全活動を継続しています。2012年度は、10月に植林活動を実施し、360本のスギや広葉樹の苗木植えや、獣害対策のネット掛け作業を行いました。



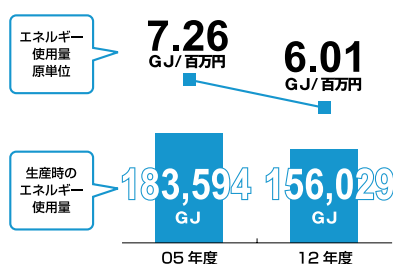
森林保全活動の様子

省エネ・ピーク電力削減への取り組み

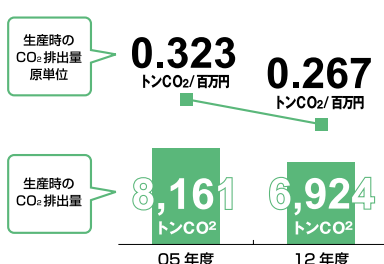
2012年度は、道路反射鏡製造ラインなど一部の生産工程を、日勤生産から夜勤生産に変更し、電力のピークカットに対応しました。また、電力使用のデマンド管理をしながら、生産ライン立上げ時間の調整を行いました。

主要な環境パフォーマンスの推移

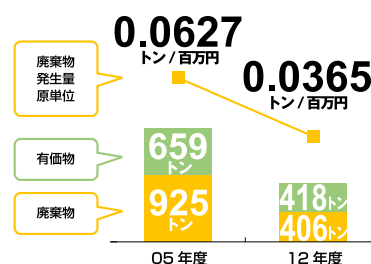
生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位



生産時のCO₂排出量、CO₂排出量原単位



廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位



土浦つくば工場

土浦製造所

所在地:茨城県土浦市東中貫町2-2

主要生産品目:路面標示材

設立年月:1968年5月

敷地面積:31,811㎡



土浦製造所

つくば製造所

所在地:茨城県牛久市桂町2200-3

主要生産品目:メッシュフェンス・手摺関連製品

設立年月:1990年5月

敷地面積:56,353㎡



つくば製造所

活動報告

節電・ピーク電力削減への取り組み

土浦つくば工場は、環境活動の一環として、茨城県が主催する「いばらきエコチャレンジ2012(事業所部門)」に参加しました。電力需給問題への対応とCO₂排出量の削減を目的とし、夏場の電気使用量や最大需用電力の削減に全従業員でチャレンジしました。日々の小まめな節電、主要設備の休日稼働や平日休止などの取り組みをしました。

その結果、1,103事業所が参加する中、ピークカット節電部門で優秀賞をいただくことができました。今後とも、この受賞を励みに、全従業員で節電活動に取り組んでいきます。



いばらきエコチャレンジ2012
ピークカット節電部門 優秀賞



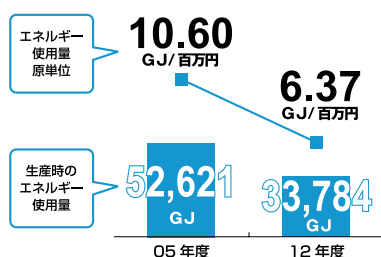
小集団活動



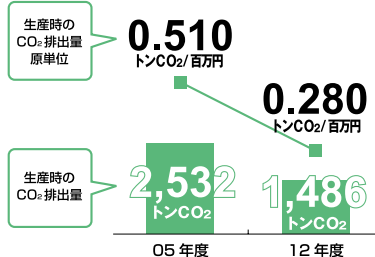
安全大会

主要な環境パフォーマンスの推移

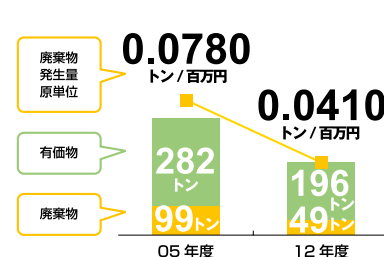
生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位



生産時のCO₂排出量、CO₂排出量原単位



廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位



石川工場

石川工場

所在地: 石川県能美市吉原釜屋町口-1

主要生産品目: 梱包資機材・農業資材

設立年月: 1972年4月

敷地面積: 68,078㎡



石川工場

活動報告

環境貢献活動

2012年度より「石川県企業の森づくり推進事業」に参画し、石川工場に程近い海岸林の再生へ地元住民の方々と従業員・家族が一致団結し、クロマツの植樹と周辺整備を実施するとともに沿岸地における松林の役割を学びました。成果が出るのは数十年先ですが、未来に向けた松林の復活で白砂青松の美しい海岸林を造り上げるため、今後も継続して活動します。



協定調印式



植樹活動の参加者



クロマツ植樹の様子

灯油消費量削減への取り組み

農業支柱の生産では、鋼管を乾燥する工程で灯油を使用しています。この工程において、乾燥時間の見直し・標準化などの改善を行い、灯油消費量の削減に取り組みました。具体的には、鋼管の乾燥時間と炉内温度を測定し、乾燥性能を維持しながら余剰な乾燥時間をカットしました。また、炉本体と熱風発生装置の間隙を極小化したり、炉内の熱風の流れを整流化するなどの改善も併せて行うことにより、燃費効率のアップをはかってきました。

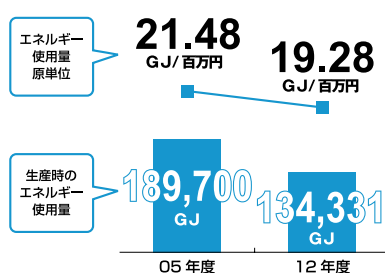
これら改善の結果、2011年度と比較して約22%の灯油消費量削減を達成することができました。



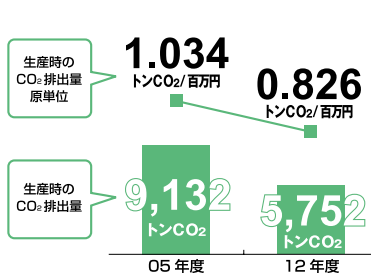
鋼管乾燥設備

主要な環境パフォーマンスの推移

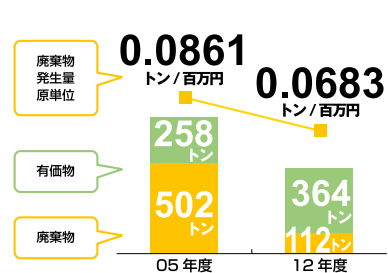
生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位



生産時のCO₂排出量、CO₂排出量原単位



廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位



積水樹脂プラメタル株式会社

本社工場

所在地: 長野県上伊那郡辰野町大字小野795-1

主要生産品目: 機能面材・アルミ樹脂複合板

設立年月: 1966年6月

敷地面積: 20,470㎡



本社工場

活動報告

環境貢献活動

2011年9月1日に長野県辰野町と締結した「森林(もり)の里親協定」の一環として、2012年6月2日に第2回森林整備体験活動を、長野県上伊那郡辰野町の荒神山スポーツ公園内にある町有林で行いました。当日は、長野県上伊那地方事務所及び辰野町役場関係の方3名を合わせて総勢49名が参加しました。



第2回森林整備体験活動の参加者



下草刈りの様子

関東工場

所在地: 茨城県牛久市桂町2220-3

主要生産品目: 機能面材・アルミ樹脂複合板



関東工場

省エネ・節電への取り組み

大型設備の一極運転を小型設備の局所配置と間欠運転へと変更することにより、エネルギーの使用量や、CO₂の排出量の削減を推進しています。

また、切断機の集塵機を大型サイクロン方式から小型フィルター方式に変更し、大幅な消費電力削減をはかりました。



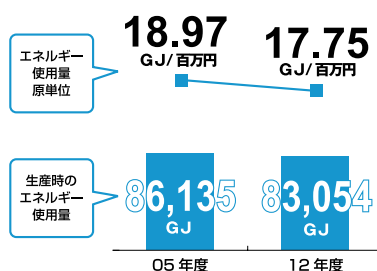
変更前



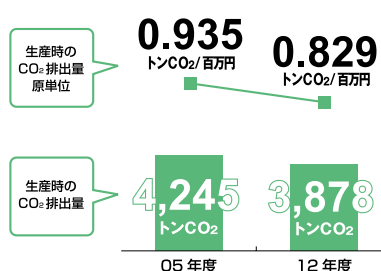
変更後

主要な環境パフォーマンスの推移

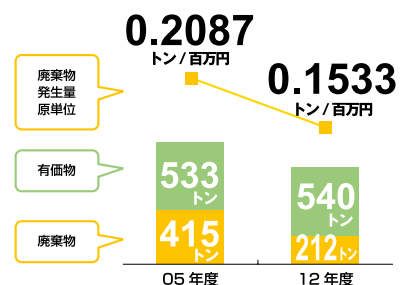
生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位



生産時のCO₂排出量、CO₂排出量原単位



廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位



Sekisui Jushi Strapping B.V.

所在地: Ringweg 50, Industriepark Roerstreek Noord 7866 6045
JL Roermond The Netherlands

主要生産品目: 梱包用PPバンドの製造

設立年月: 1974年1月 敷地面積: 30,000m²

活動報告

省エネ・廃棄物削減への取り組み

押出成形機などの生産設備を、順次インバーター式に更新しています。また、工程を改善することで、生産設備立上げ時のロスを低減するなど、省エネ・廃棄物削減活動を継続して行っています。

安全衛生活動

消防署の立ち合いのもと、工場からの出火を想定した消防訓練、および事業所への常設が義務づけられているAED(自動体外式除細動器)の使用訓練を行いました。これらの訓練を併せて行うことで、災害時に対処すべき一連の動作を習得することができ、従業員の安全衛生意識の高揚につながりました。



Sekisui Jushi Strapping B.V.



消防訓練の様子



AED使用訓練の様子

Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd.

所在地: 700/743 Moo 1 Amata Nakom Industrial Estate, Tambol Panthong
Amphur Panthong, Chonburi 20160, Thailand

主要生産品目: 射出成形金型の製造・販売及び射出成形品の製造・販売

設立年月: 2011年7月 敷地面積: 32,000m²

活動報告



消火訓練の様子



安全衛生活動

消防訓練として外部講師による初期消火の講習・訓練を実施しています。各部門より選抜された者が初期消火について講習を受け、消火器による消火訓練を行いました。最後に全従業員による避難訓練を実施し、火災発生、警報機作動、避難、集合・点呼・確認の訓練を行いました。

CCCF活動

CCCF活動(Completely Check Completely Find Out Safty Activity)は、工場内外の危険箇所を各部門で自主点検して改善していくもので、今回は東海理化タイランドによる実施状況の監査を受けました。



CCCF活動実施状況監査の様子

Summit Strapping Corporation

所在地: Phase II Lot 11 Carmelray Industrial Park Canlubang,
Calamba, 4027 Laguna, Philippines

主要生産品目: 梱包用PPバンドの製造・販売

設立年月: 1997年3月 敷地面積: 5,577㎡



Summit Strapping Corporation

活動報告

省エネ・節電への取り組み

2012年度は、電力会社とのピーク電力コントロールプログラムを立ち上げ、ピーク電力の低減につとめました。

また、生産設備のインバーターモーターへの積極的な更新を行っております。

安全衛生活動

安全衛生活動として、以下を行いました。

- ・防火及び緊急時対策のセミナー・トレーニング実施
- ・熱中症対策のセミナーを実施
- ・健康と予防に関するビデオ講習会を実施



消火訓練の様子



熱中症対策セミナーの様子

DATA

海外事業所の環境負荷データ

	Sekisui Jushi Strapping B.V			Summit Strapping Corporation			Sekisui Jushi (Thailand) Co.,Ltd		
	2010年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度	2012年度
CO ₂ 排出量(トン)	3,187	3,086	3,160	1,688	1,956	2,170			2,862
廃棄物排出量(トン)	30.00	35.00	30.00	47.50	35.70	40.45			200.20

	青島積水樹脂新包材有限公司			青島積水樹脂有限公司			無錫積水樹脂有限公司		
	2010年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度	2012年度	2010年度	2011年度	2012年度
CO ₂ 排出量(トン)	613	630	688	126	97	126	871	871	883
廃棄物排出量(トン)	3.00	3.00	3.00	5.00	14.00	14.00	2.00	4.00	2.00

※2011年7月より当社グループ参入のため、2012年度よりデータ取得の対象とした。

社会性報告



これからも社会から信頼され続ける企業であるために

積水樹脂グループは企業の社会的責任(CSR)を果たすため、企業人としてどのように行動すべきかを定めた「積水樹脂グループ企業行動指針」に基づき、CSR活動を進めています。



積水樹脂 滋賀工場内 性能確認試験走路「道夢道」

■積水樹脂グループ企業行動指針

＜人権の尊重＞

1. 国内・外を問わず人権を尊重し、平等・公平に行動するとともに、従業員のゆとりと豊かさを實現し、安全で働きやすい職場環境を確保します。

＜社会的責任＞

2. 顧客のニーズにかなう安全な製品・サービスを提供するとともに、正しい製品情報を適確に提供し、顧客の信頼と満足を獲得します。
3. 公正かつ適正な取引関係の上に取引先との信頼関係を築き、相互の発展を図るとともに社会的信頼を高めます。
4. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。

＜法令等の遵守＞

5. あらゆる企業活動において法令・社内ルール等を遵守し、公正な企業活動を遂行します。
6. 個人情報や会社の機密情報は厳正に管理します。
7. 政治・行政とは健全かつ透明な関係を維持します。

＜反社会的勢力への対応＞

8. 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは関係を持ちません。

＜社会・環境との調和＞

9. 国内・外を問わず、その文化や習慣を尊重し、地域社会との共生を目指します。
10. 環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、積極的に推進します。



走踏試験



落錘衝撃試験



視認性確認試験



音響測定試験

品質管理委員会を設置し、製品の品質向上に取り組んでいます

推進体制

品質管理委員会を設置しています

各生産事業所ごとに品質管理委員会を設置しています。この委員会では、品質改善やお客様に満足していただける製品作りのため、年度ごとに品質目標、重点実施項目、推進計画を定め、実施状況の管理・フォローを行っています。

品質マネジメントシステム体制

主要生産事業所では、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築し、認証登録を継続しています。

データ編:ISOの認証取得状況は50ページ

主な取り組み

製品品質の評価・改善

大規模試験走路「道夢道」には「走踏試験機」や「落錘試験機」、「音響測定試験棟」などの大型試験設備があります。製品開発では、これらの試験機を活用し、実物での製品安全性や耐久性の検証を行い、製品品質の評価・改善を行っています。



コーンカロリーメーターによる樹脂の不燃性評価

また、樹脂や製品の不燃・難燃性試験など、素材の特性を評価する機器も備えています。

品質情報の共有化

クレーム発生状況やPL情報については、社内イントラネットを活用し、品質管理情報として共有化しています。また、公的な認証等を取得している製品の情報についても開示しています。

PL事故予防

PL法は、製造物の欠陥によって、人の生命、身体、財産に被害が生じた場合に、製造業者に損害賠償責任を課するものです。PL事故予防のために、以下の取り組みを行っています。

(1)製品開発段階での危険性予測

製品に潜在的に存在する危険性を製品化の各段階でチェックし、製品設計に反映させています。

(2)取扱説明書・カタログのPLチェック

「取扱説明書作成ガイドライン」を整備し適切な取扱説明書の作成に役立てています。また、取扱説明書・カタログの表示を事前にチェックし、使用者へ正しい安全情報を提供することにつとめています。

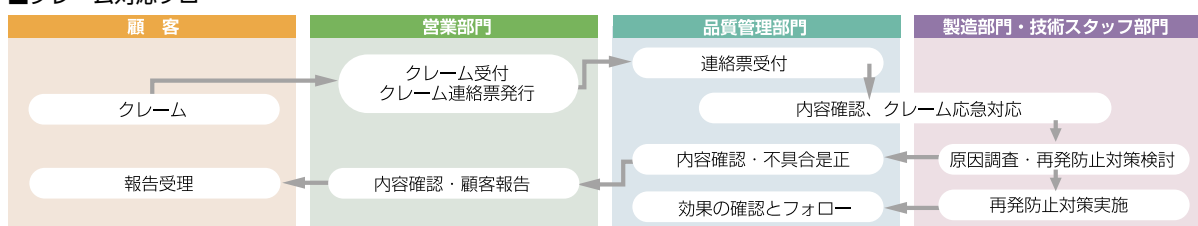
(3)PL社内監査

PL社内監査を毎年実施しています。PL事故予防への取り組み状況について監査し、不具合事項があれば改善の指示・指導を行っています。

クレームへの対応と再発防止

お客様からのクレームは、各営業部門にて受け付けた後、品質管理部門、製造部門、技術スタッフ部門が協力して再発防止のための調査・実施を行っています。再発防止対策の実施後は、効果の確認を行い対策の妥当性を検証しています

■クレーム対応フロー





安全と健康に配慮した環境を確保するとともに、キャリア開発を積極的に支援することで、従業員と会社がともに成長できる組織風土づくりにつとめています

人権を尊重した企業経営

人権の尊重

企業活動の根幹をなすのは「ひと」であり、企業の内外を問わず、その活動に関わるすべての人の人権を尊重し、これを守ることは、企業の使命です。当社グループでは、基本的人権の尊重の精神を遵守していくため、様々な研修を通して、人権問題の理解と啓発に取り組んでいます。

健全な労使関係

各事業所にて労務委員会を定期的に開催し、従業員の意見・要望が活かされるようつとめています。また、全従業員を対象に仕事へのやりがいや職場環境、人事制度に対する「自己申告」を実施し、寄せられた声から、組織の持つ強み・弱み、改善点を明らかにし、各種制度や施策に反映させています。

従業員・組織の活性化

仕事に誇りを持ち、自らチャレンジできる環境整備を推進

社内公募制度

従業員のモチベーションを高め、高い成果を期待するためには、会社のニーズにおける異動に加え、本人の意志・適性とのマッチングをはかることが大切です。当社は、従業員の意向を踏まえ、“自らチャレンジできる”異動・配置の施策として「社内公募制度」を導入しています。

社内表彰制度

従業員の業務活動への意欲や成果を引き出すために、業績に貢献した従業員に対して創立記念業績表彰を実施しています。



創立記念業績表彰式の様子

海外研修制度

海外事業展開を担う人材の計画的な育成を目的に、海外研修制度を2012年度に導入しました。国際舞台で活躍したいと考える意欲の高い若手従業員を公募のうえ、選抜された従業員は、6ヵ月～1年の期間、海外子会社等へ派遣されます。海外での生活、ビジネス体験を通して、異なる価値観・文化に触れ、仕事の視野を広げる研修制度です。

多面観察調査

従業員の自己啓発をはかる施策として、「多面観察調査」を実施しています。この調査では、自分の「特性」や「強み・弱み」などを客観的に認識でき、個々が結果を受け入れやすいことから、自己成長のツールとしています。

人材育成

個々の可能性を引き出す人材育成

SJC塾

当社グループの将来を担う人材の育成が目的の「SJC塾」では、経営マネジメントや経理知識、マーケティングなど経営全般にわたる幅広いテーマで講義が行われます。グループ会社を含む従業員の中から、公募により選抜された塾生(毎年45名程度)は、職級別に3クラスに分かれ、年間を通じて全3回(12日程度)の講義を受講します。「積水樹脂グループによる、積水樹脂グループのため」を実践すべく、社長をはじめ経営陣自らが教鞭を執るなど「手造り」が特長です。

技術教育研修

メーカーの生命線ともいえる「コア技術」は、大切な財産です。この貴重な財産を多くの人々が共有し、確実に後世に残していくために、従業員自らが講師となる社内スクーリング方式を採用し、「技術伝達」、「技能伝承」を効率よく実施しています。

快適な職場環境づくり

ワーク・ライフ・バランスの推進

従業員一人ひとりの仕事と家庭との両立を支援し、多様な職場環境づくりを進めることにより、企業の持続的発展に貢献することを目指しています。

年次有給休暇取得の推進を目指した「リフレッシュ休暇制度」や育児休暇制度、育児短時間勤務制度など、ゆとりと働きがいのある職場環境を創出しています。

今後も、従業員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスを重視した職場環境づくりに取り組みます。



SJC塾の様子



技術教育研修の様子

定年後の再雇用制度

定年退職者を対象に65歳まで再雇用する制度を設けています。働く意欲があれば、培ってきた知識・技術・能力を十分に活かすことができ、再雇用者と会社の双方にメリットがあります。

また、定年後はゆとりある生活をしたいという従業員の声を尊重し、勤務日数や時間を選択できる「サムタイム勤務制度」も設けています。

障がい者雇用

障がいのある方への雇用機会拡大と職場定着を目指し、障がい者と職場が相互に協力して能力を発揮できる環境を、今後も継続して整えていきます。



全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組んでいます

推進体制

安全衛生方針を定め、各種安全衛生活動を推進しています

安全衛生方針

積水樹脂グループ全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組みます。

- ① 全従業員が「安全最優先」のもと行動します。
- ② 労働安全衛生に関連する法令及び各事業所で規程されるルールを遵守します。
- ③ 安全衛生活動の継続的改善に努めます。

労働災害の発生状況

2012年度は、積水樹脂グループ全体で休業災害が2件、不休災害が6件発生しました。災害が発生した事業所では、原因を追究するとともに直ちに再発防止対策を講じています。

データ編：度数率・強度率の5年間の推移は49ページ

主な取り組み

安全・衛生教育

重大な影響を及ぼす事故や自然災害等の緊急事態に備え、消防訓練や防災訓練を定期的に行っています。また、社内マニュアルに基づき、自然災害対策備品を備蓄しています。滋賀工場では、5月に熱中症勉強会を開催し、従業員に熱中症予防の呼びかけを行い、また、熱中症にかかった際の応急処置に関する知識を習得しました。



消火訓練



熱中症勉強会

心身の健康管理の推進

全ての従業員が健康を維持していけるように、定期健康診断を実施し、二次検診や精密検診、保健師による定期的な健康相談を行っています。また、滋賀工場においては、年間を通じた「メンタルヘルスケア研修」や、健康運動教室を開催し、全従業員を対象とした心身の健康管理を進めています。



メンタルヘルスケア研修

外部機関による安全診断

外部機関による安全診断を、毎年、主要生産事業所を対象に実施しています。この安全診断で発見された不具合・指摘事項については、水平展開を含めて、速やかに是正を行い、不安全箇所の撲滅、安全な職場づくりに役立てています。



外部機関による安全診断

ゼロ災リーダー研修

従業員安全教育の一つとして、毎年、「ゼロ災インストラクター」を招いて「ゼロ災リーダー研修」を開催し、各現場での安全リーダーを養成しています。1999年より毎年開催し、累計176名のゼロ災リーダーを養成しました。



ゼロ災リーダー研修



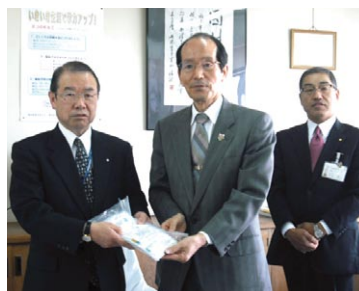
社会貢献活動を通じて、社会との絆を深めていきます

工場の廃材を活用した社会貢献活動

地域の小中学生に「反射シール」を寄贈

当社の関係会社である東北積水樹脂(株)は、交通安全製品に携わる企業として、通学路での交通事故の防止を目的に、2013年4月に同社が立地する宮城県柴田郡柴田町内の小中学生全員を対象に、「反射シール」を3,500セット寄贈しました。

この「反射シール」は、道路標識などの交通安全製品を製造する際に発生する廃材を加工し、作成したものです。



柴田町教育委員会に「反射シール」を寄贈



同教育委員会からのお礼状



かばんや自転車などに貼ることで、夜間の交通事故を防止します

地域社会への貢献

清掃・美化運動

当社グループの各生産事業所では、事業所近辺の道路沿いや空き地のゴミ拾いなど、清掃や美化運動活動を定期的に実施しています。



清掃・美化運動の様子(滋賀工場)



(土浦つくば工場)

地域の行事への参加・協賛

各事業所の立地する地域で行われている行事に参加・協賛することで、地域社会とのコミュニケーションをはかっています。

■主な地域社会への協賛

- ・ほたる祭り(長野県上伊那郡辰野町)
- ・ふれあい東城祭り(広島県庄原市)
- ・祖生ふるさとまつり(山口県岩国市)

一人ひとりが参加しやすい社会貢献活動

TABLE FOR TWO プログラムへの参加

2008年5月から大阪本社の社員食堂で、「TABLE FOR TWOプログラム」に参加しています。このプログラムは対象となる食事を購入することで、1食につき20円の寄付金が、TABLE FOR TWOを通じて開発途上国の子どもの学校給食になります。



BOOK MAGICへの参加

大阪本社では、2011年8月から、「BOOK MAGIC」を年2回行っています。「BOOK MAGIC」とは、不要な本やCDを売却し、その売上をNPO法人JENに寄付することで開発途上国の教育サポートプログラムに役立ててもらう取り組みです。



BOOK MAGICの様子





ステークホルダーのみなさんとの積極的なコミュニケーションをはかっています

ステークホルダーのみなさんへの情報公開

環境・社会報告書の発行

2002年度より環境への取り組みと実績を掲載した「環境報告書」を発行しており、2005年度より社会的活動の報告を加え、「環境・社会報告書」として発行しています。2012年度は、「環境・社会報告書」のポイントをまとめたダイジェスト版を新たに発行しました。また、これらの情報は、当社のホームページでも公開しています。



環境・社会報告書のご紹介ホームページアドレス
<http://www.sekisuijushi.co.jp/environment/index.html>

機関投資家とのコミュニケーション

決算説明会の実施

当社は、証券アナリスト、ファンドマネージャーなどの機関投資家に対する決算説明会を年2回開催しています。2012年度の決算説明会では、代表取締役より、決算内容や年度計画、中期経営計画の進捗状況などについての説明を行いました。また、機関投資家からは、当社の今後の事業展開について、たくさんのご質問をいただきました。



代表取締役が決算内容等を説明

地域のみなさんとのコミュニケーション

工場見学会の実施

地域のみなさんに、工場の活動や環境への取り組み等を理解していただくために、工場見学会、製品説明会、就労体験を随時実施しています。



地域の中学生への工場見学会の様子
 (東北積水樹脂株)

グローバルなコミュニケーション

「インタートラフィック」への出展

世界中のお客様とのコミュニケーションの機会として、45カ国以上から800以上のブースが出展される世界最大の交通見本市である「インタートラフィック2012アムステルダム」に当社の交通安全製品を出展しました。



インタートラフィック2012の様子

TOPICS

新製品発表会2012を開催しました

「安全・安心」「環境」と減災・防災に貢献する製品をアライアンス企業との共同出展も含め約1600人のお客様にご紹介しました。

第12回を迎えた新製品発表会、国内外から約1600人のお客様が来場

2012年9月7日に「新製品発表会2012」を滋賀工場内の道夢道全域、R&Dプラザにおいて開催しました。会場には全国各地の官公庁、コンサル、ゼネコン、販売代理店などのお客様をはじめ海外からも多数ご来場をいただきました。



「安全・安心」「環境」と、減災・防災に貢献する製品のご提案をテーマに

今回の新製品発表会は「安全・安心・環境と減災・防災に貢献する製品のご提案」をメインテーマとして開催しました。当日は当社アライアンス企業との共同出展も含めテーマに沿った新製品技術を性能試験や実演を交えてご紹介しました。また今回は、より一層製品性能や技術の理解を深めていただくため、各会議室などを使用しての「新製品説明会」を行い、開発担当者から詳しく新製品をご説明するとともにお客様からもご質問やご要望などを数多く頂戴することができました。



家庭内や社屋内でご使用いただける、防災・災害・節電製品を一堂に展示。耐震デモンストレーションとして起震車両を活用し製品設置効果をご覧いただきました。



「東日本復興プロジェクト」での活動を通じて得た情報をもとに製品化した高台避難を中心とした避難路や避難場所整備向け製品群をご紹介しました。



新製品発表会2012の紹介ホームページ

開催報告としてインターネットホームページ開設し、開催内容をダイジェストで紹介したムービーを公開しています。

新製品発表会 2012 のご紹介ホームページアドレス

<http://www.sjc.gr.jp/2012new/>



経営基盤であるコンプライアンス、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント体制の強化をはかっています

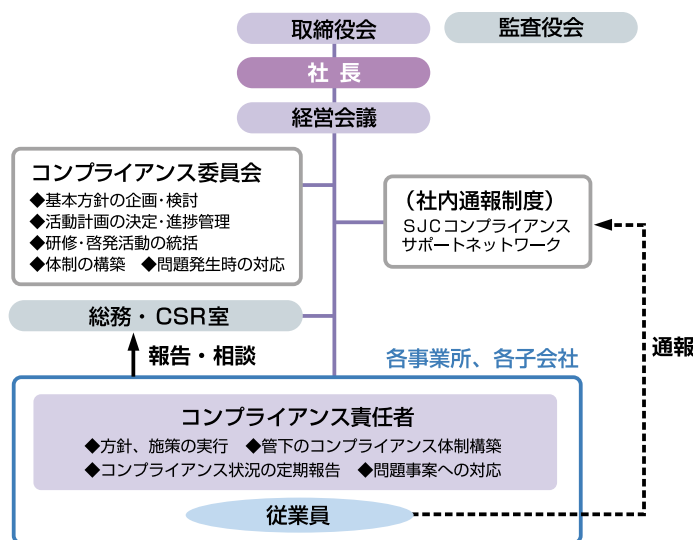
コンプライアンス

コンプライアンスの考え方

積水樹脂グループは、コンプライアンスを「法令や社内ルールを守るとはもちろん、企業倫理に基づき誠実に行動すること」ととらえ、一人ひとりが、日々の業務の中でコンプライアンスを実践しています。

コンプライアンス体制

当社グループのコンプライアンスについては、「コンプライアンス委員会」が統括・推進するとともに、各事業所および子会社に「コンプライアンス責任者」を置き、体制の維持・強化をはかっています。また、不正、違法、反倫理行為の早期発見と迅速な是正のために、当社グループの全役員・従業員が利用できる「社内通報制度」を導入しています。



コンプライアンス定期報告

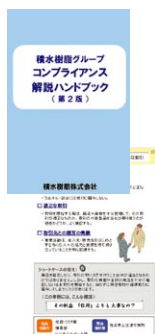
コンプライアンスに関する問題の未然防止・早期発見をはかるとともに、全社的な施策の検討・実施に活用するため、「コンプライアンス委員会」が各事業所および子会社の「コンプライアンス責任者」から活動状況や課題等の報告を定期的に受ける体制を構築しています。

TOPICS

コンプライアンス体制の強化に向けた取り組み

「コンプライアンス解説ハンドブック」を改訂し、第2版を発行

従業員一人ひとりが、コンプライアンスについて理解を深めるよう、「コンプライアンス解説ハンドブック」をグループの全役員・従業員に配布しています。2012年度は、「コンプライアンス解説ハンドブック」の内容を改訂し、第2版を発行しました。このハンドブックを活用し、コンプライアンス啓発活動を積極的に推進しています。



「ソーシャル メディアの利用とリスク管理」に関する講演会の開催

近年、ツイッターやフェイスブックなどの普及に伴い、ソーシャルメディアに関するリスク管理の重要性が高まっている背景を踏まえて、外部講師(弁護士)による「ソーシャルメディアの利用とリスク管理」に関する講演会を、2012年10月から11月にかけて、全国3ヶ所(東京都、大阪府、滋賀県)で開催しました。講演会には、管理職を中心に合計174名が参加し、ソーシャルメディアの特性、一般的な留意事項や従業員がソーシャルメディアを利用して会社の情報を発信する際のリスク・留意点等を学びました。

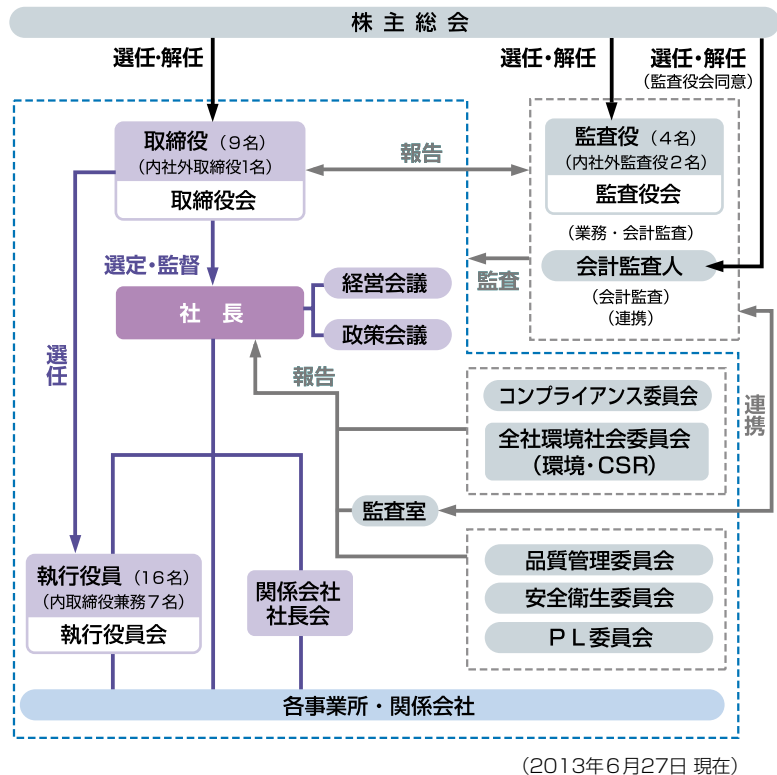


講演会の様子

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス体制

当社では、経営責任を明確にするため、取締役の任期を1年としているほか、社外取締役1名を選任し、取締役会における監督機能の強化と意思決定の強化をはかっています。また、取締役会が決定した方針を適確・迅速に執行するため、「執行役員制度」を導入しているほか、取締役会の効率性を確保するため、「経営会議」において、十分な事前審議を行っています。「経営会議」は、原則として、常勤取締役および議長から指名された執行役員にて構成され、常勤監査役が出席のもと毎月1回以上開催しています。監査役会は、4名で構成しており、うち2名が社外監査役です。監査役会は定期的に行われ、監査結果等について報告・意見交換がなされています。



(2013年6月27日 現在)

リスクマネジメント

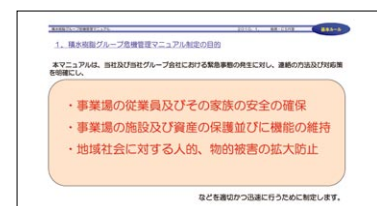
リスク管理体制

事業活動におけるリスクの発生を防止し、また、リスクが顕在化した場合に、迅速・適確な対応を行うためには、リスク管理体制の構築が不可欠です。当社グループは、経営会議で定められた方針に基づき、「品質」、「安全」、「環境」については、それぞれ該当する委員会においてリスク管理を行っています。また、他のリスクに関しては、各担当部署において業務上のリスクを認識し、リスク対応策を講じています。

項目	委員会名称	委員会の取り組み
品質	品質管理委員会	製品の品質管理に関する取り組みの推進
安全	安全衛生委員会	労働安全衛生、環境に関する取り組みの推進
環境	全社環境社会委員会	環境・社会活動に関する全社方針・計画策定・施策の審議

危機管理マニュアル

当社グループを取り巻くリスクが現実となった場合の連絡や対応の手順を明確にし、社会に対する責任を果たすとともに、会社の被害・損失の最小化と企業活動の早期回復をはかるため、「危機管理マニュアル」を定めています。このマニュアルでは、大規模自然災害、製品事故、違反など個々のリスクに応じて、それぞれの対応の具体的な手順を定めています。なお、当社をとりまく環境の変化に対応するため、必要に応じて、このマニュアルの内容を見直しています。

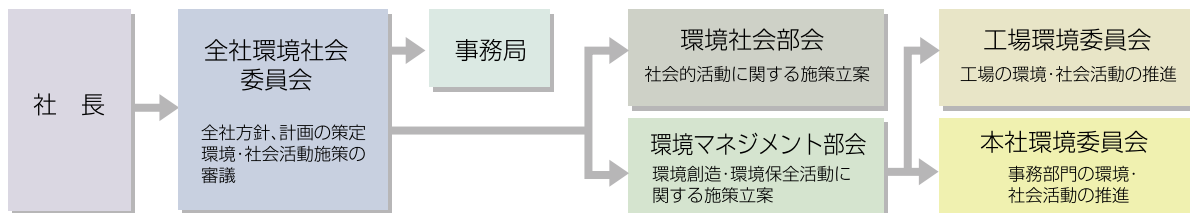


危機管理マニュアルの一部

データ編

環境推進体制

環境活動にあわせて社会的活動を総合的に推進するため、環境マネジメント部会において環境創造・環境保全活動に関する施策を、環境社会部会において社会的活動に関する施策を立案する体制としています。立案された施策は全社環境社会委員会において審議・決定され、施策は各事業所に伝達されて推進・実行されます。



環境活動のあゆみ

1998年	「環境経営理念」・「環境経営方針」を制定 環境経営革新運動「JEEEP」を導入
2000年	環境経営革新運動「JEEEP」の業績優秀者を表彰する制度を開始
2001年	「環境経営推進委員会」を設置 「環境経営推進委員会」を受けて「全社環境委員会」を設置 滋賀工場、石川工場、土浦つくば工場においてISO14001の認証を取得 第1次環境3ヵ年計画を策定 地球環境調和型製品基準を制定 グリーン購入基準（事務用品）を制定
2002年	環境会計を導入 環境報告書の発行を開始 石川工場においてゼロエミッションを達成 グリーン購入基準（資材）を制定
2003年	環境社内監査を開始 紙巻（コア）のない自動梱包用結束バンド「コアレス」が平成15年度資材循環技術・システム表彰 「財団法人クリーンジャパンセンター会長賞」を受賞 滋賀工場、土浦つくば工場においてゼロエミッションを達成 第2次環境3ヵ年計画を策定
2004年	広島東城工場、積水樹脂ブラメタル㈱、東北積水樹脂㈱においてISO14001の認証を取得 広島東城工場、積水樹脂ブラメタル㈱、東北積水樹脂㈱においてゼロエミッションを達成
2005年	環境面のみならず、社会面への取り組みを推進するため、全社環境委員会を「全社環境社会委員会」に変更 非生産部門の環境活動強化のため、工場環境委員会と並列して「本社環境委員会」を新設
2006年	本社・事業部、スパーシア㈱においてISO14001の認証を取得 第3次環境3ヵ年計画を策定
2007年	関東積水樹脂㈱、積水樹脂電子テクノ㈱、ロードエンタープライズ㈱、積水樹脂ブラメタル㈱関東工場においてゼロエミッションを達成
2008年	本社部門ISO14001活動において、関東支店を取得拡大 積水樹脂産商㈱、宮崎積水樹脂㈱においてゼロエミッションを達成
2009年	積水樹脂産商㈱にてFSC認証を取得 「地球いきもの委員会」の活動への協賛 第4次環境3ヵ年計画を策定
2010年	2010年を社会貢献元年と位置づけ各分野に対する社会貢献活動を推進 滋賀工場が滋賀県蒲生郡日野町、錦向生産森林組合と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結
2011年	積水樹脂ブラメタル㈱が長野県上伊那郡辰野町と「森林（もり）の里親協定」を締結
2012年	石川工場が石川県能美市、道林釜屋山林組合、根上森林連合会、石川県南加賀農林総合事務所と「企業の森づくり推進事業協定」を締結

環境会計

積水樹脂グループは環境保全活動に要した費用、それから得た環境保全効果とそれにもなう経済効果を定量的に把握し、評価することで、より効率的な環境保全活動の推進をはかっています。環境会計の手順については、環境省の「環境会計ガイドライン」をもとに当社グループ独自の考えを加えて、共通の環境会計手順書を定めています。

また、データの精度向上のために、この手順の見直しを行い、各データの算出と集計を行っています。

■ 環境保全コスト

(単位/百万円)

項目			2010年度		2011年度		2012年度	
分類	主な取り組み内容		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト	①公害防止コスト	公害防止対策	8	28	2	20	1	18
	②地球環境保全コスト	温暖化防止対策	12	42	47	49	67	72
	③資源循環コスト	資源投入量の削減 廃棄物の削減	16	78	21	77	10	88
(2) 上・下流コスト	グリーン調達 地球環境調和型製品の特注設計		0	14	0	11	1	13
(3) 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの構築・運用 環境教育 緑化・美化・清掃活動		0	54	0	48	0	50
(4) 研究開発コスト	地球環境調和型製品の研究・開発		22	180	14	145	27	97
(5) 社会活動コスト	環境関連展示会への出展		0	1	0	1	0	1
(6) 環境損傷対応コスト	土壌汚染、自然破壊等の修復		0	0	0	0	0	0
合計			58	397	84	351	106	339

(単位/百万円)

項目	2010年度	2011年度	2012年度
当該期間の投資額の総額	651	623	671
当該期間の研究開発費の総額	981	938	962

■ 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス	2010年度		2011年度		2012年度	
		2010年度実績	環境保全効果 (09年度との差)	2011年度実績	環境保全効果 (10年度との差)	2012年度実績	環境保全効果 (11年度との差)
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	電気使用量(千kWh)	37,726	630	35,818	▲1,908	36,036	218
	燃料使用量(千GJ)	120	▲2	111	▲9	113	2
生産活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	生産時のCO ₂ 排出量(千トン・CO ₂)	23	0	21	▲2	22	1
	廃棄物発生量 有価物除く(トン)	1,116	▲51	978	▲138	945	▲33

■ 環境保全対策にともなう実質的経済効果

(単位/百万円)

効果の内容	金額		
	2010年度	2011年度	2012年度
リサイクルによる有価物売却収入	25	23	22
省資源による費用削減	97	116	162
省エネルギーによる費用削減	16	26	14
リサイクルによる廃棄物処理費用削減	31	12	6
その他	0	0	0
合計	169	177	204

対象期間:2012年4月1日~2013年3月31日 集計範囲:対象事業所は以下のとおりです

① 自社工場

●滋賀工場 ●土浦つくば工場 ●石川工場 ●広島東城工場

② 関係会社

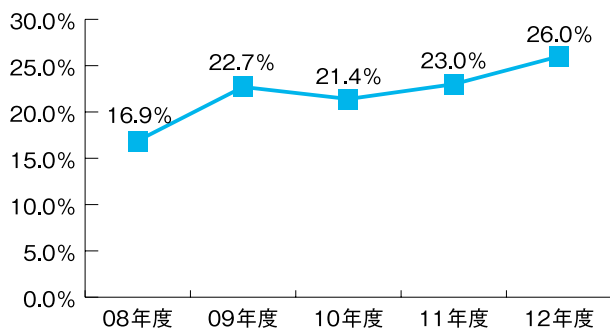
●積水樹脂プラメタル(株) ●東北積水樹脂(株) ●積水樹脂産商(株) ●エスジェイシー寿(株) ●宮崎積水樹脂(株)
●ロードエンタープライズ(株) ●関東積水樹脂(株) ●スペシア(株) ●サンエイポリマー(株) ●積水樹脂キャップアイシステム(株)

③ 上記生産事業所内に活動主体がある部門

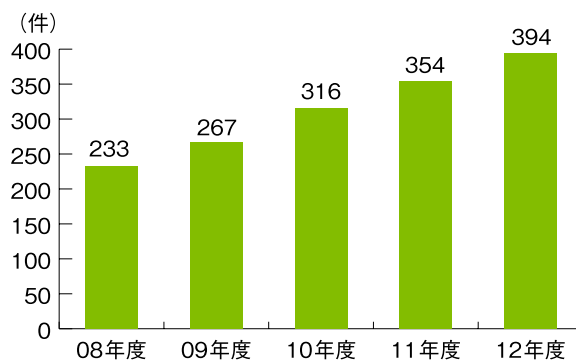
●各事業本部の開発室及び開発グループ ●(株)積水樹脂技術研究所 ●積水樹脂物流(株) ●オーミテック(株)
●積水樹脂電子テクノ(株)

主要な環境パフォーマンスの推移

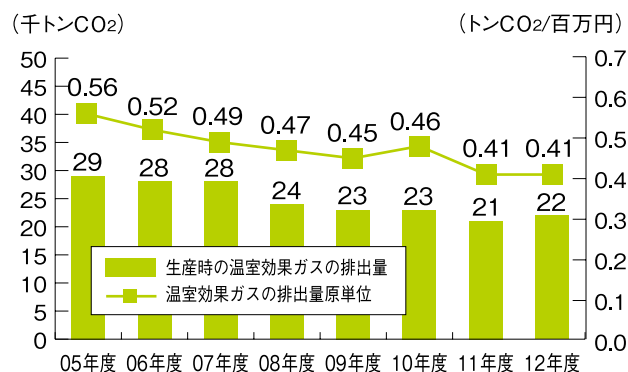
地球環境調和型製品の製品売上高比率



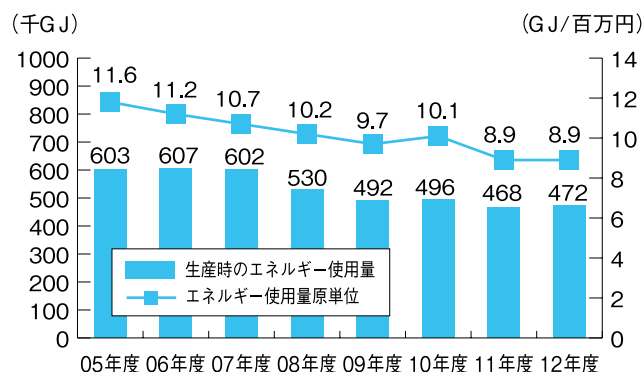
地球環境調和型製品数(累計)



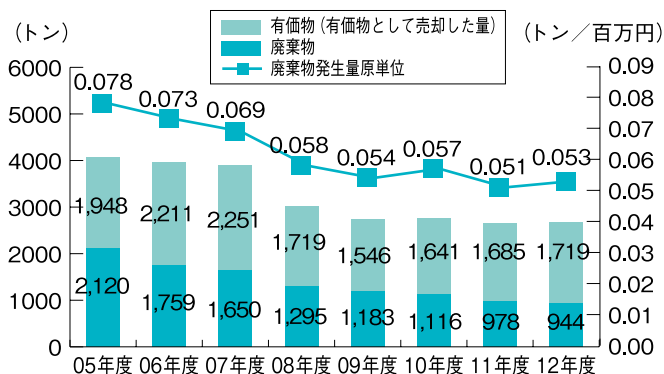
生産時のCO₂排出量と原単位



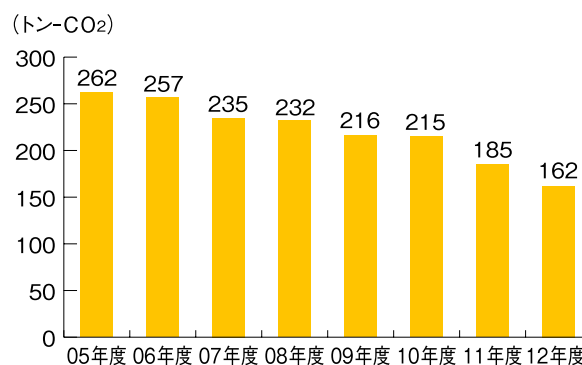
生産時のエネルギー使用量と原単位



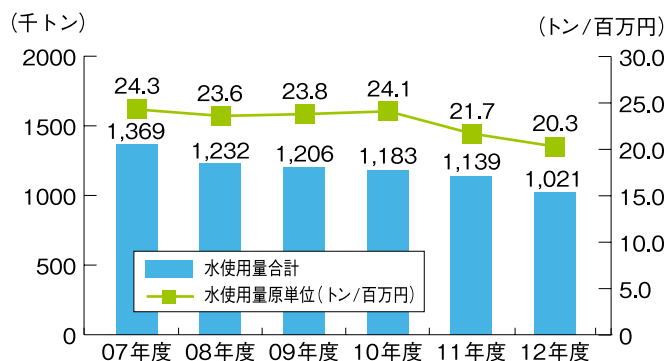
廃棄物排出量と原単位



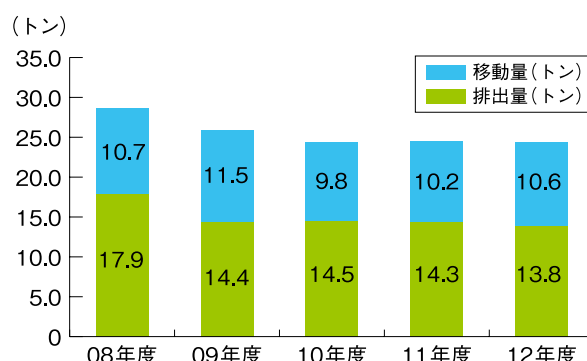
オフィスのCO₂排出量



水の使用量と原単位

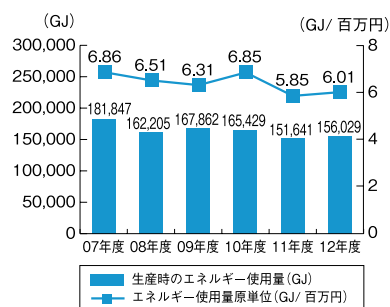


化学物質排出量・移動量

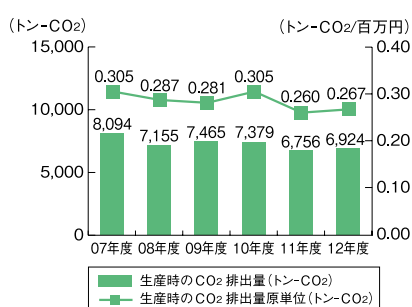


滋賀工場

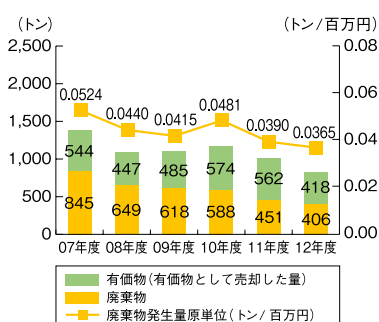
生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位



生産時のCO₂排出量、CO₂排出量原単位

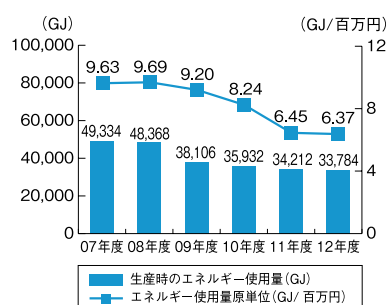


廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位

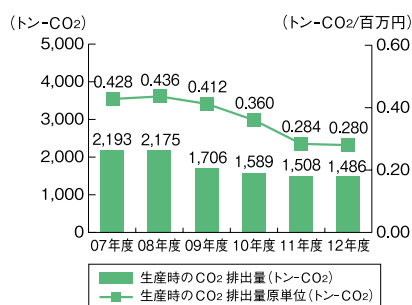


土浦つくば工場

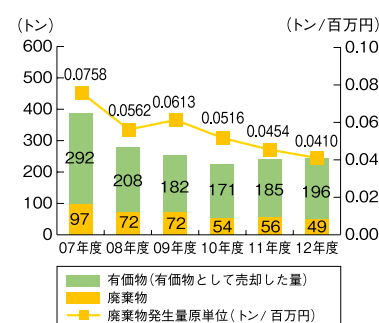
生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位



生産時のCO₂排出量、CO₂排出量原単位

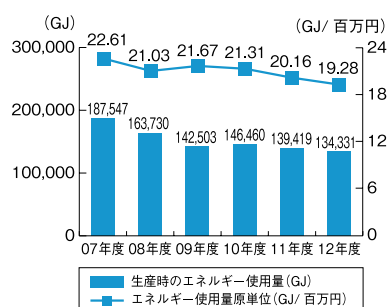


廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位

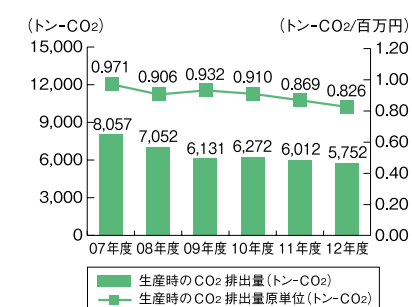


石川工場

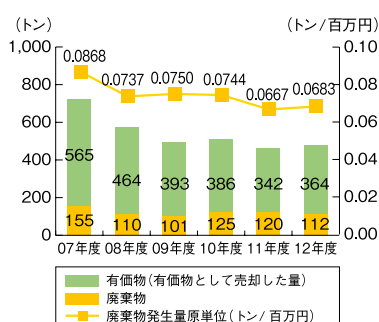
生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位



生産時のCO₂排出量、CO₂排出量原単位

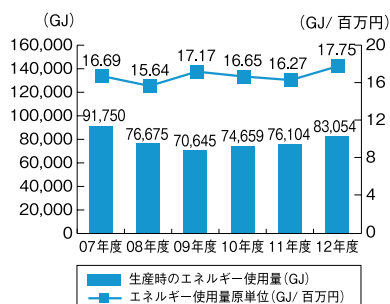


廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位

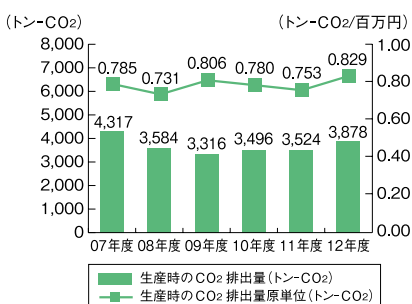


積水樹脂プラメタル株式会社

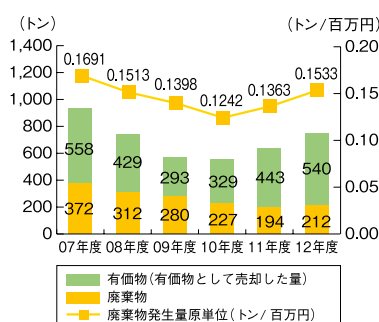
生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位



生産時のCO₂排出量、CO₂排出量原単位

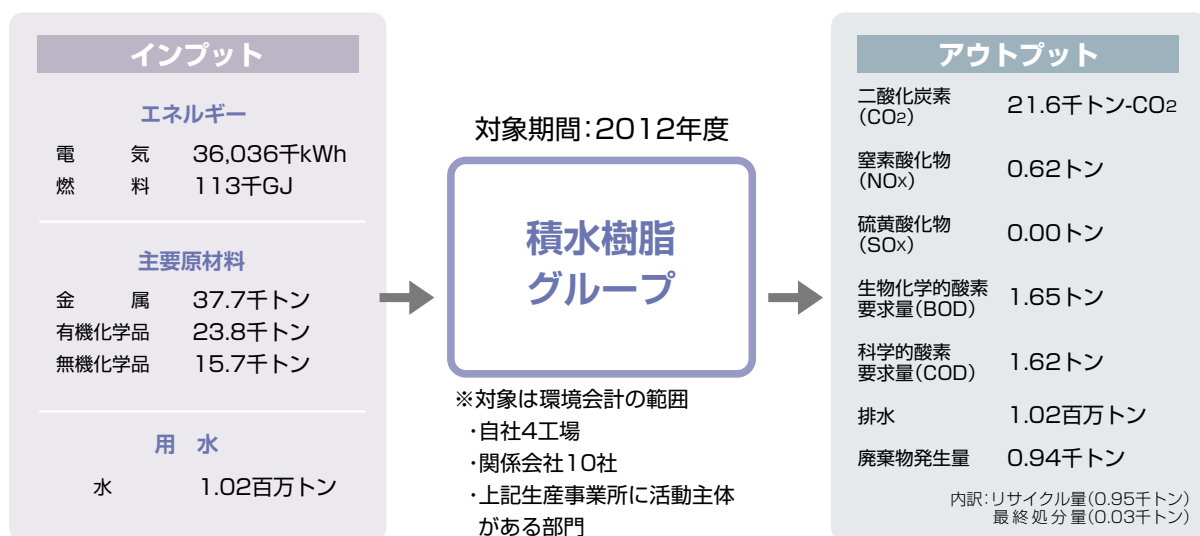


廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位



マテリアルバランス

事業活動におけるエネルギー、原材料などの「インプット」、そして環境への排出量や廃棄物などの「アウトプット」をマテリアルバランスの考えに基づき環境会計の中で集計しています。

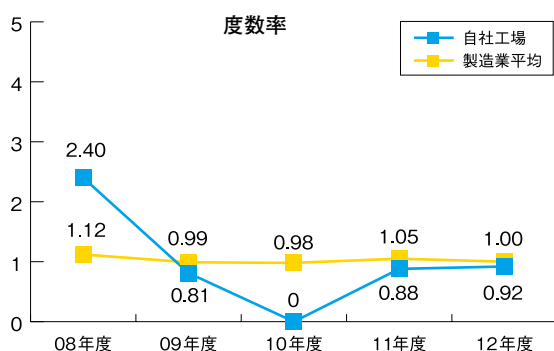


環境関連資格取得者

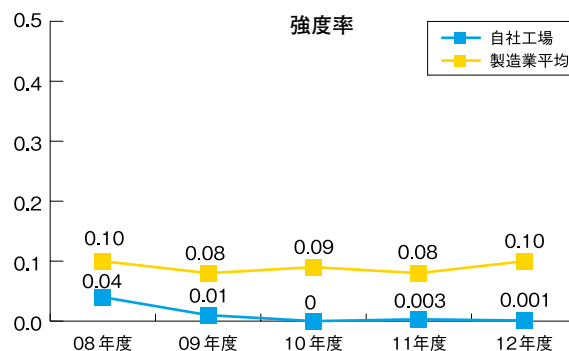
環境関連資格の取得者に奨励金を付与する報奨制度を設け、資格の取得を奨励しています。

環境関連資格名	取得者累計(2012年度末現在)
公害防止管理者関係	37
エネルギー管理士関係	10
環境マネジメントシステム審査員(補)	1
その他(造園施工管理技士等)	8
特別管理産業廃棄物管理責任者	32

度数率・強度率



度数率: 100万延労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、労働災害の頻度を表したものです。



強度率: 1,000延労働時間当たりの労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表したものです。

ISO14001 認証取得状況

取得事業場名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所及び構内関連企業
滋賀工場	2001年1月19日 JQA-EM1275	・鉄骨加工製品、塗装製品、樹脂押出成形製品の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・株式会社積水樹脂技術研究所 ・積水樹脂株式会社 開発設計部門
石川工場	2001年3月30日 JQA-EM1487	・PPバンド、PETバンド、被覆鋼管支柱、家庭用ホース及び射出成形品の製造 ・ストレッチ包装機の設計及び製造	北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	2001年6月15日 JQA-EM1614	・路面標示材、メッシュフェンス及び手摺りの製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社 つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社 土浦製造所
積水樹脂 プラメタル(株)	2004年8月27日 JQA-EM4182	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属・樹脂複合板の設計・開発、 製造及び販売	・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
東北積水樹脂(株)	2004年12月6日 C2010-02347	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標等の交通安全用品の製造	
広島東城工場	2005年3月18日 JQA-EM4627	・路面標示材及び薄層カラー路面舗装材の製造 ・プラスチック擬木及び道路反射鏡の製造	・広島積水樹脂株式会社
スぺーシア(株)	2006年10月10日 EC06J0142	・パイプ、部材やその加工品の製造、販売、開発	
本社・事業部	2007年1月12日 JQA-EM5661	・本社・事業本部の管理業務(秘書・経営企画・総務・人事・経理・購買・監査・知的財産 権管理・デザイン・情報管理・営業管理) ・都市環境関連事業、街路・住関連事業並びに産業・生活関連事業に関する業務	・積水樹脂株式会社 事業本部 ・積水樹脂株式会社 関東支店 ・積水樹脂コーポレートスタッフ株式会社 ・積水樹脂商事株式会社 ・株式会社エスジェイシーテクノサービス ・積水樹脂産商株式会社 ・関東積水樹脂株式会社

海外事業所における取得状況 ●セキスイジユシ(タイランド)Co.,Ltd. ●青島積水樹脂新包材有限公司 ●無錫積水樹脂有限公司

ISO9001 認証取得状況

取得事業所名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所
滋賀工場	1998年12月11日 JQA-2853	・メッシュフェンス、防護欄、防音壁、街路照明灯、シェルター、交通安全用品、 樹脂押出製品、標識柱、道路反射鏡、計測器(繊維製巻尺)の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・積水樹脂株式会社 開発設計部門
石川工場	1999年3月5日 JQA-3133	・PPバンド、ポリエステルバンド及びプラスチック線(エクセル線)、被覆鋼管支柱 直管の設計・開発及び製造	・北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	1999年8月6日 JQA-QM3615	・メッシュフェンス、路面標示材、手摺り、防音壁、防護欄の製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社 つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社 土浦製造所
エスジェイシー寿(株)	2002年7月26日 Q0914	・道路標識の設計、製造および施工 ・道路付属施設(マーキング、防護欄、反射鏡)の施工	・鈴鹿営業所
積水樹脂 プラメタル(株)	2003年7月25日 JQA-QMA10252	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属・樹脂複合板の設計・開発、 製造及び販売	・本社、本社工場 ・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
広島東城工場	2004年3月26日 JQA-QMA11212	・路面標示材、エポキシ樹脂を除く薄層カラー路面舗装材、プラスチック押出成形 擬木、プラスチック射出成形擬木及び道路反射鏡の製造	・広島積水樹脂株式会社
東北積水樹脂(株)	2004年12月6日 C2010-02346	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標等の交通安全用品の製造	

海外事業所における取得状況 ●セキスイジユシ(タイランド)Co.,Ltd. ●セキスイジユシストラッピングB.V. ●サミットストラッピングCorp.
●セキスイジユシフィリピン,Inc. ●青島積水樹脂新包材有限公司 ●無錫積水樹脂有限公司



積水樹脂株式会社

本 社

〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号 堂島関電ビル6F
TEL:06(6365)3204 FAX:06(6365)7181
URL:<http://www.sekisuijushi.co.jp/>

東京本社

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目11番1号 ニューピア竹芝ノースタワー12F
TEL:03(5400)1801 FAX:03(5400)1833

お問い合わせ先

総務・CSR室

〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号 堂島関電ビル6F
TEL:06(6365)3288 FAX:06(6365)7181

技術研究所・安全品質環境グループ

〒520-2596 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
TEL:0748(58)2488 FAX:0748(58)3326



当社は、「国連生物多様性の10年日本委員会」の取り組みに協賛しております。



当社は、「公益財団法人 交通遺児育英会」の活動に協賛しております。